ライオン誌（毎月20日発行）第55巻第11号 2013年4月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

LION

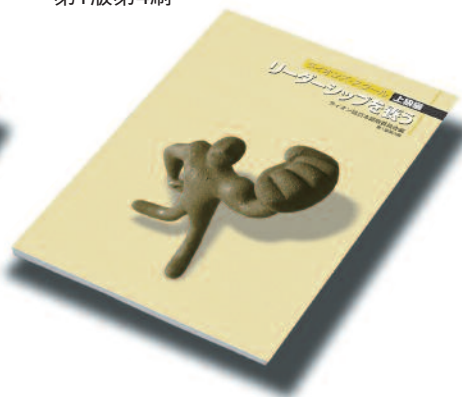
IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP MAY 2013 5

今月のTHEME
リーダーシップ

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・ライオンズクラブ入門
第3版第3刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・クラブ運営の基礎知識
第3版第2刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・リーダーシップを養う
第1版第4刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

●ライオンズクラブ入門…………　部
●クラブ運営の基礎知識…………　部
●リーダーシップを養う…………　部
●創刊55周年記念特別セット…………　セット
（『ウィ・サーブ』『ライオニズムよ永遠に』『ライオン誌日本語版創刊号復刻版』の３冊入り）

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒　-		お電話番号

LION MAGAZINE IN JAPAN
May 2013, Vol.55 No.11

We Serve CONTENTS

2013年5月号
●表紙シリーズ
日本の風景 38
宮城県蔵王町
蔵王エコーライン
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Wayne A. Madden
Lions Clubs
International President

ライオンズは
史上最高のチーム

世界中を旅していると、テレビを見る時間は限られてしまいます。しかしこの春には、カレッジバスケットボールの試合をいくつか部分的に見ることが出来ました。レベルの高いバスケットボールの試合は、すばらしいチームワークを見せてくれます。5人の選手は共通の目的に向かってコートを駆け回り、まるで見えない糸で結ばれているようです。私がやっていたスポーツの中でも特に、チームの仲間と同じゴールを目指すバスケットボールは、他に味わえないような高揚感が得られるものです。

成功するライオンズクラブは優れたチームです。そこでは誰もが役割を担い、称賛や栄光を得るためではなく、共通の目的を達成するために各自の責任を果たします。ライオンであることがこれほど充実しているのは、価値観の似通った親しい仲間と共に奉仕するからに他なりません。外から見ると、私たちが奉仕という面倒な仕事を義務感から行い、本当は楽しんでいないように映るかもしれません。ライオンズにしてみれば、それはとんでもない間違いです。私たちはクラブの一員であること、例会で仲間と交流すること、その上で他者のために協力することを楽しんでいるのですから。

従って、外側にいる彼らをクラブに引き入れなければなりません。ライオンズとしての熱意を共に分かち合いましょう。私たちには新しい仲間、特に女性、若者、マイノリティーの人々が必要です。彼らに「秘密」を打ち明けましょう。それは、ライオンズに加われば、やりがい、喜び、達成感が得られるだけでなく、心から楽しい時間を過ごせるのだということです。

国際協会のウェブサイトには、会員を増やすために役立つツール、資料、戦略が満載されています。グローバル会員増強チーム（GMT）、グローバル指導力育成チーム（GLT）、女性及び家族会員増強タスクフォースの他にも、多くのライオンズが地区やクラブのレベルで熱心に会員増強に取り組んでいます。しかし、あらゆるクラブの一人ひとりが将来の会員に働き掛けない限り、組織としての潜在能力が発揮されることはありません。つまり、ライオンズの未来は信頼すべき皆さんの手に委ねられているのです。

バスケットボールのコートや野球の塁を駆け回るには、私はもう年を取ってしまいました。しかし、史上最高のチームの一員であることは、今でも私の人生の中心です。奉仕の世界を時代から時代へと回し続けていくために、ライオンズのチームに絶え間なく新たなメンバーを補充してください。

Wayne A. Madden

2012-13年度国際会長
ウェイン･A･マデン

THEME
リーダーシップ

本誌企画「若手会員フォーラム」で、全国から集まった50歳未満の会員たちが、リーダーシップをテーマに展開した熱いディスカッションをリポート。また次年度、地区でリーダーシップを発揮する第1副地区ガバナーの中からお二人にこれまでの歩みを聞いた。

●若手会員フォーラム❶理想のリーダー像

あなたはどんなリーダーを目指すか

若手会員フォーラムの幕開けは「理想のリーダー像」。
事前アンケートから見えてきた望まれるライオンズ・リーダーとは

●プレゼンター
大野元裕（埼玉県・川口ライオンズクラブ／元地区ガバナー）

若手会員フォーラム参加者の皆さんには、事前課題として「理想のリーダー像」とその理由を提出して頂きました。これを身近な存在から遠い存在に並べ、その特徴を「人間性」「人を動かす」「行動力」「知性」「組織運営」の五つに分類してみたところ、興味深い結果が見えてきました。

まず身近な理想のリーダー像。祖母や、直接親交のあるライオンズ・メンバーなどがありました。理由としては、その人間性に感銘を受けたというものが多い。人格者であるとか、人のために働く、公平で包容力がある、気配りが出来、他人を敬う、などです。組織にあっては人の意見に耳を傾け、チームワークを大事にすることで信頼を得ています。

一方、ご自身からは遠い存在、例えば会ったことはない政治家や、歴史上の偉人などでは、その知性や組織運営に感銘を受け、より強い人物像を求める傾向がありました。

見比べてみると、こうなりたいと目指すリーダーと、実際に会ってこの人なら自分たちのリーダーにと思う人は異なるのかもしれません。

双方に共通する点もありました。決断力や実行力がそれです。とても優しい人でも優柔不断ではダメ。チームを引っ張っていける力が求められています。

さて、それではライオンズにおけるリーダーとはどのような人でしょうか。

『ライオンズ必携』に「ライオンと呼ばるる人」という一文が掲載されています。これには、三つのポイントがあります。一つは仕事で成功している人。次に社会のリーダー。そして心が豊かな人。これらはいずれも、リーダーに必要とされる資質だと思うのですが、ここにいらっしゃる方々を始めライオンズ・メンバーは皆、この資質を備えていらっしゃいます。

そしてそのリーダーの素質がある人たちの中から、更にリーダーとなる方が出てきます。それは社会的地位や身分にかかわらず、この人ならば前に立って我々を、世界のライオンズを引っ張っていってくれる人だと皆に認められ、後押しされて先頭に立つような人でしょう。

とはいえ、そのイメージは一つではありません。先に見たようにいろいろなリーダー像があります。

考えてみてください。

あなたは、どんなリーダーでしょうか。

あの人は、どんなリーダーでしょうか。

そしてあなたが目指すのは、どんなリーダーなのでしょうか。

本日いらしている方の中にも何人かお見受け致しますが、「ライオンズ馬鹿」と呼ばれる人がいます。ライオンズに対して、とても強い情熱を持ち、皆がそれを認知している方々です。

人を引っ張っていくには、論理的に思考し目的を明確化することで、指示や行動にメッセージを与えられる力がなくてはなりません。が、何より必要なのは、この「馬鹿」と呼ばれるほどの情熱だと私は思います。

さて、今ここにおられる方々は、4年前の若手会員フォーラム参加者の多数が現在そうなっているように、きっと4年後のライオンズのリーダーとなられると確信します。今ここはそうした人たちが、互いに議論し切磋琢磨する場所です。豊かな経験とアイデアを共有することで、既に持ち合わせている資質を養う貴重な機会となるはずです。

正直に申し上げれば、ライオンズクラブのリーダー像に答えはありません。でも、皆さんが探して、皆さんが吸い上げて、皆さんがリーダーになってください。この若手会員フォーラムでは、皆さん一人ひとりが、最後は国際会長になることを目指すつもりで、ライオンズクラブのリーダーについて議論して頂ければと思っています。

●若手会員フォーラム❷ライオンズ仕分け

ライオンズクラブの現状を把握する

「理想のリーダー像」の後はTチャートを使った「ライオンズ仕分け」。
「友人や後輩など若い人をライオンズクラブへ誘う場合」の
ライオンズの良い面と問題点が次々と出された

Ｔチャートによるライオンズ仕分け
友人や後輩など若い人をライオンズクラブへ誘う場合

★お薦めポイント★

＜出会い＞
- 老若男女多くの出会い
- 異業種の人との交流
- 人脈が広がる
- 人生の先生がいる
- 全国に仲間が出来る
- 世界中に仲間が出来る

＜自己啓発・成長＞
- 新しい体験
- 視野が広がる
- 非日常的な経験
- 旅行（特に世界）
- 時間の使い方を学べる
- 国際性が身につく
- 信用が得られる
- いつまでも若くいられる

＜奉仕＞
- 社会奉仕が出来る
- 社会のためになれる
- 人を助ける精神が養われる
- 歴史、実績の看板の下で活動出来る
- 一人では出来ないことが出来る
- 人に喜ばれる

★誘うのをためらわせる点★

＜負担＞
- 会費が高い
- お金がかかる
- 時間が取られる（特に休日）
- 家庭、仕事とのバランスが取りにくい

＜人間関係＞
- 年長者の小言や暴言
- 女性蔑視がある
- 派閥がある
- 若い人が役を押しつけられる

＜イメージ＞
- 若い人には敷居が高い
- 年配者の集団
- 金持ちの道楽と思われている

＜奉仕＞
- ボランティア団体として期待に添えない
- 高齢化によるアクティビティの停滞

＜組織＞
- 組織に魅力がない
- 宗教っぽい部分がある（例会などで）
- 変なしきたりや伝統がある
- 内向きの行事に費用を掛け過ぎ
- 単年度制

Ｔチャートとは：

　あるトピックについて、Ｔ字の左右に「良い面／悪い面」「利益／不利益」といった相反する見解や意見をリストアップしていく方法。2012年４月の日本ライオンズ・メンバーシップ・セミナーで講師を務めた故ケイ・Ｋ・フクシマ元国際会長が、クラブ研修の手法として紹介した。所属するカリフォルニア州サクラメント・セネター ライオンズ(クラブ)の学習会では、「クラブの良いところ・好きな点（＋）」「クラブの嫌いなところ・不満な点（－）」を会員各自が書き出して発表し、リストの上位に挙がった五つを選択して、プラス面は強化・拡張するための、マイナス面は解消・解決するための行動計画を討議・作成する。同クラブはこれを年２回、７月と12月に実施している

今回の若手会員フォーラムのテーマは「若手がライオンズの中でリーダーシップを発揮するためには」。参加者は大野元ガバナーの「理想のリーダー像」、Ｔチャートを使った「ライオンズ仕分け」を経てリーダーシップやライオンズについて考えていく。「ライオンズ仕分け」では友人や後輩など若い人をライオンズクラブに誘う場合を考える。そこでライオンズの「お薦めポイント」と「誘うのをためらわせる点」をグループ・ディスカッションであぶり出していく方法をとった。

　多くのグループで共通した意見が出され、良くも悪くも現状を反映した結果になったと言える。お薦めポイントとしては「さまざまな人と出会える」「世界中に仲間が出来る」「信用が得られる」などが挙げられ、躊躇する点としては「会費が高い」「人間関係が大変」「時間が取られる」などが指摘された。「誘うのをためらわせる点」で挙げられた内容は、参加者にとって現状の悩みと重なっているようだった。特に人間関係に関しては年配のベテラン・メンバーとの関わり方などに悩みがあるという意見が多く見受けられた。

●若手会員フォーラム❸ワールドカフェ

若手会員がライオンズの中でリーダーシップを発揮するためには

「理想のリーダー像」、「ライオンズ仕分け」に続き、午後からは
多くの人とディスカッションが出来る「ワールドカフェ」で熱い議論が交わされた

午後からはグループディスカッション。大野元ガバナーの「理想のリーダー像」、全員で意見を出し合った「ライオンズ仕分け」を経て、「若手会員がライオンズの中でリーダーシップを発揮するためには」を考えていく。今後、日本のライオンズクラブを引っ張っていく立場になるであろう若手会員にとって、避けては通れない議題だ。

ワールドカフェとは：

1995年、アメリカ·カリフォルニア州で開かれていた、ある会合で偶然生み出されたディスカッション方式。人々がカフェのようにオープンな空間で創造性に富んだ会話が出来る場とプロセスを用意することで、状況の共有や新しい知識の生成を行うプロセス。組織変革、教育などさまざまな場面で活用されている。

世代間ギャップをどう埋めるか

あらかじめ分けられたテーブルに着いた参加者はファシリテーターの下、早速議論を始める。年齢が近いとはいえ、ライオン歴も違えば地域も違う。若い人の多いクラブから参加している人もいれば、クラブに若手は自分一人というライオンもいる。だが、どのグループでも、積極的で活発な議論が行われた。

ディスカッション・テーマが比較的大きな題目だったため、議論が多様化するかと思われたが、多くのテーブルで「世代間ギャップ」についての議論がなされた。若手にとって、上の世代との人間関係はライオンズの活動を続ける上で強く意識せざるを得ないことなのだと感じられた。

ただし、その悩みは立場や環境によってさまざまだ。

例えばある参加者が「若いんだからと言われて多くの役職をやらされる。光栄なことだが、あまりにも多くてきつい。若手には時間とお金があまりないことも少しは理解してほしい」と述べている一方で、「年長者の意見が強過ぎて例会でも何も発言することがない。自分は必要ないんじゃないかと思うことがある」という意見も出た。また、「若手会員フォーラムに参加することをクラブに内緒にしている」という発言に、他の参加者が驚く場面もあった。

クラブ内での根回しが必要

クラブ内でリーダーシップを取っていくということは、先輩に対してもリーダーシップを取らなければいけないということ。しかし、それがなかなか難しいのが現状だ。

そんな中、ベテランとの関係について「後輩力」というキーワードが出てきた。「若手はベテランに『理解してほしい』と考えているが、理解してもらうための努力もすべきである」という意見があり、それが、後輩力の発揮だという。何か新しい事業を提案するなら「やりたい」と言うだけでなく、共感してもらえるよう根回しをする必要があるということだ。

逆に継続事業に関してはベテランが若手に意義をもっと伝えるべきなのかもしれない。若手の意見の中には「今ではほとんど効果のない、結成当時からのアクティビティに固執していて、止めたいが止めることが出来ない」というものもあった。ベテランはその継続事業に本当に意味があるのかを考え直し、意味があるのであれば、それを若手会員に伝えるべきだろう。また、それに付随して「継続事業を見直すなら周年の時にするとタイミングが良い」という意見も出てきた。周年事業として新たな活動を行い、それを次なる継続事業として、効果の薄いものから切り替える、というアイデアである。

多くのテーブルで共通して出てきた「ベテランとの世代間ギャップ」だが、若手とベテランとが本音で話せる機会が少ないことも分かってきた。本音でぶつかり合い、信頼関係を築くことによってクラブの一体感が生まれ、若手にとっても新しいアクティビティを提案しやすいクラブとなるのではないだろうか。

世代別クラブを結成する

あるテーブルでは若手会員とベテラン会員とのギャップに対して「世代別クラブを結成してはどうか」という斬新な意見が出た。これによって世代ごとの意見を均等にくみ取れるというメリットがあると言う。シニアクラブや新世紀クラブが結成されていることからも、年齢で区切るのは一つの案として興味深く受け取られた。この意見は多くの人の記憶に残ったようで、終了後のアンケートでも「印象的な意見」として書いている人がいた。

だが、この年齢別クラブに対して慎重な意見も出た。ライオンズクラブの魅力の一つに「幅広い世代と関われる」というものがあり、それが損なわれるのではないか、というのがその最たるものだ。また、若手中心のクラブに所属しているライオンからは「先輩はいないが、一部の声が大きい人の意見で全てが決まってしまう」という話もあり、問題の原因は年齢ばかりではないらしい。

しかし、非公式でも良いから何か同世代の話を聞けるような組織があれば良いという考えは、広く受け入れられているように見受けられた。

役職が人を育てる

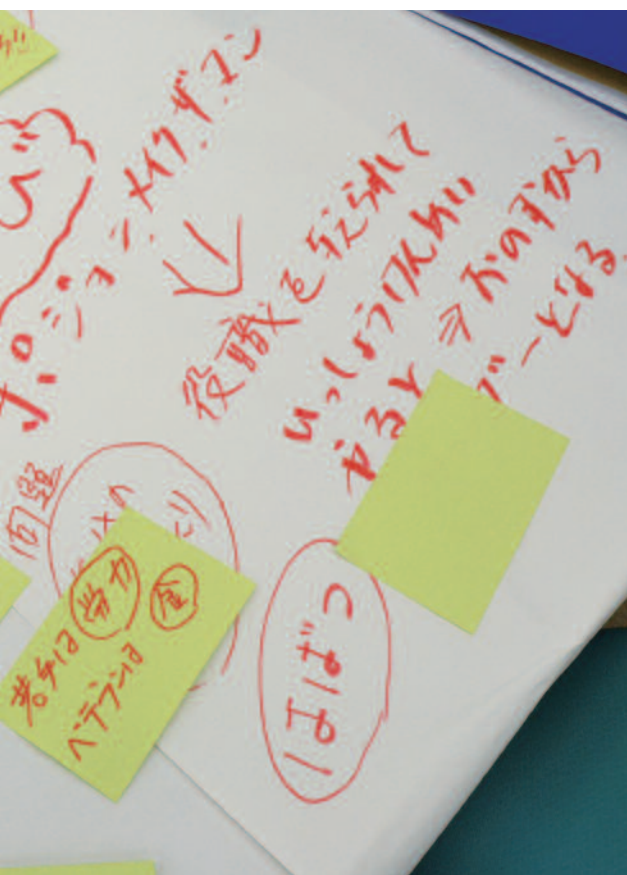
若手がリーダーシップを発揮するために必要なこととして挙がったのが、「勉強」だ。先輩のメンバーたちに勉強をしてがんばっている姿を見せることも大切だという。そうやってクラブの中で自分のことを徐々に認めてもらうのだ。そうすれば、何かやりたいことがある時に話を聞いてもらいやすくなる。

とはいえ、机に向かって『ライオンズ必携』を読むだけが勉強ではない。「役職が人を育てる」と言うが、若手にとっては与えられた役職を真剣にこなしていくだけでも学びになるという意見が出た。もし、若手の登用に慎重なクラブに在籍しているならば、OSEALフォーラムや国際大会に顔を出すのも良い。そうやって他のクラブの人と交流をしたり、国際会長や国際理事の話を聞いたりすることで、ライオンズの違った面を発見し、ライオンズの魅力を感じることが出来る。

また、退会者の多くがライオンズの魅力を知ることのないままクラブを去ってしまうことも問題視された。事実、まだ入会して半年という参加者も、クラブに対する憂いがあると言う。それに対して「ライオンズは知れば知るほど面白いし、好きになる」という意見が多く出た。そこに至る前に辞めてしまう人が多いのは残念なことである。

参加者の中には若くして役職を経験し、リーダーシップを発揮しているライオンも多く、その経験談に刺激を受けた人もいた。「今まで他のクラブの人と話をする機会があまりなかった」という参加者は「もっと交流の機会を持ちたい」と話していた。終了後のアンケートでも「こういう機会をもっと増やしてほしい」という意見が大半を占めるなど、他のクラブに在籍しているメンバーとの交流はライオンズの魅力に気付く良いきっかけになるようだ。

ベテランも若手も お互いを褒め合う

ワールドカフェは第1ラウンドから第3ラウンドまでラウンドごとに違う参加者と討議をする。今回は更

に最終第4ラウンドで最初のテーブルに戻り、第1ラウンドと同じメンバーでディスカッションをした。他の人の意見を聞くことで自分の考えを見直す効果があり、ラウンドを経るごとに議論は深まっていった。

　グループの結論には大きく分けて三つの傾向があった。

　一つ目は若手が積極的にリーダーシップを取っていくべきだというもの。この背景には若手が斬新なアイデアを出しても、クラブ内で認められない場合が多いという現状がある。ならば、発案した若手が中心となり事業を進めていこうという考え方だ。それが成果を上げれば、クラブ内でもアイデアを認められやすい。また、事業の実施を外部に発信し、他のクラブにも理解者を作っていく。こうして他クラブからも褒められるようになれば、また事業を任せてもらえるのではないかという意見もあった。

　二つ目は若手がライオンズのことを深く知る必要があるというもの。勉強をして自他共に認めるリーダーとなり、クラブを引っ張っていくのだ。役職を積極的に引き受け、与えられた仕事は何があってもしっかりこなしていくことで信頼を勝ち得てリーダーとなっていく。そのためにも、新会員に対する教育システムなどをクラブで考え、構築していく必要があるという考えも出てきた。

　三つ目はライオンズの組織構造自体に変革を求めるもの。前述の年代別クラブが最たるものだ。また、1トップとしてのリーダーを作るのではなく、それぞれが分担して場面ごとにリーダーを作るという意見もあった。

　また、三つの結論それぞれに共通して言えるのは世代間のギャップをどう解消していくか、という点。若手も、ベテランも、お互いのことをよく知らなければ良い関係にはなかなかなれないもの。若手の中からは「将来自分が年を取ったと考えた時、若手から『お金だけ出していれば良い』と言われてしまうのは寂しい」という意見が出た。若手は自分がベテランになった時のことを想像し、ベテランは自分が若手だった頃を思い出して行動する必要がある。

日本から国際会長を出すためには

　最後に高田順一国際理事による全体ディスカッション「日本から国際会長を出すためには」を行った。これは、定期的に日本から国際会長を出すためにはどうしたら良いかを問うたもの。日本のメンバー数は世界全体の8％程度に当たる。単純にメンバー数で考えてみれば、12年～13年に1度は日本のメンバーが国際会長となり、ライオンズクラブを引っ張っていく義務がある。それを前提として、参加者たちは自分が国際会長を目指すかどうかを話し合い、考えた。今まで「国際会長」という存在を意識したことがなかった参加者も、これをきっかけにクラブや地区、そして日本を飛び越した広い視点を持てたのではないだろうか。

　総括は後藤隆一元国際理事。「年齢が高いことが悪いことではないが、年齢の構成が高い方に偏ってしまうところには問題がある。皆さんのような若い方にはどんどん地区ガバナーなどに挑戦してほしい。そして、そこから世界をリードする人になってほしい」と参加者を激励した。

　オブザーバーとして参加した中村泰久330‐C地区ガバナーからは「ここにいらした皆さんは退会をせず、そして地区ガバナーを目指して頂きたい。今後も楽しんでライオンズライフを送ってください」との言葉があった。

●若手会員フォーラム❹参加者感想

この出会いを次につなげていきたい

参加者からは「勉強会のようなものを想像していた」「参加者が超熱い」といった声が相次いだ。
クラブ外のライオンとの交流の機会が少ないという参加者もおり、
クラブに戻ってからも交流したいと意気込んでいた

●とても勉強になりました。参加者の熱に触れ、その熱によって、これからライオンズクラブが変わっていくことを実感出来ました。また、国際理事の方々が、日本から国際会長を定期的に出せるよう考えていることが印象に残りました。

里永尚太郎（東京スバル ライオンズクラブ）

●活発な意見、さまざまな発想、そしてユニークな表現が印象的でした。新会員のためのオリエンテーションがないクラブもあるので、地区での開催も検討してほしいです。

渡邉明（埼玉県・八潮コスモ ライオンズクラブ）

●一人だけシニアクラブからの参加だったので、普段交流のない若手ライオンと接する機会を期待していましたが、表面的ではない突っ込んだ交流が出来、期待以上の内容でした。

義煎英一（北海道・サッポロニシア ライオンズクラブ）

●若手会員が悩んでいる問題は全国で変わらないと確認出来ました。また、ファシリテーターの皆さんが的確に話をまとめているのが印象に残りました。

大広直（北海道・倶知安ライオンズクラブ）

●被災地からの参加は、私一人でした。このフォーラムの参加者の約8割が被災地を訪れ、支援活動を行ったということに驚きました。今後も被災地の今を全国に発信して行動していきたいと思っています。

平嶋敬義（宮城県・仙台青葉ライオンズクラブ）

●ワールドカフェで3人のファシリテーターさんの手法を体験出来たのが良かったです。勉強になりました。

安見一美（千葉花見川ライオンズクラブ）

●皆が和気あいあいとフレンドリーな雰囲気だったにもかかわらず、非常に考えさせられ、切磋琢磨出来ました。全国からこれだけの若手メンバーが集まるのに驚き、自分ももっとがんばらねばと思いました。

若林純也（茨城県・水戸葵ライオンズクラブ）

●ガバナー、あるいはそれ以上の役職を目指している参加者がたくさんいたことに驚きました。今までは自分のクラブのことばかりに集中していたのですが、もっと出会いの場に参加するべきだと感じました。

苗加康孝（富山県・高岡志貴野ライオンズクラブ）

●さまざまな地域の同世代のメンバーと時間を共有出来たことはすばらしい機会でした。メールやSNSなど多くの環境に恵まれている現代なので、この出会いをこれからにつなげていきたいと思っています。

佐野剛志（兵庫県・尼崎南ライオンズクラブ）

●長時間でしたが、終わってみればあっという間でした。ワールドカフェのやり方を取り入れた全員参加型の例会をやってみたいので、クラブに持ち帰って提案したいと思っています。

山城美智子（兵庫県・明石しおさい ライオンズクラブ）

●多くのクラブが結成時と今とではインターネットの普及や国際感覚の変化など違った状況にあり、アクティビティも時代と共に変化していかなければいけないと思います。今回私の受けた刺激をクラブで報告し、若手へ継承しようと思います。

八丁裕之（山口県・下関ライオンズクラブ）

●このフォーラムに参加したライオンは今後もライオンズライフを含め、人生の価値観を共有出来るライオンだと確信しました。

佐竹信介（福岡県・田川ライオンズクラブ）

新しい会員の勧誘
川手實平330-B第一副地区ガバナー・
エレクト

●ライオンズクラブ・リーダーへの道――川手寅平第1副地区ガバナーの場合

ライオンズの良さを次世代につなぐためのチャレンジ

ターニングポイントとなったのは2008年だった。ライオン川手は地区青年アカデミー委員長として、充実した年を過ごしていた。が、ある時、地区の人事に関する件で、嫌な部分を見せられた。入会して6年、このままライオンズを続けるか、初めて悩んだ。

ライオン川手は02年、当時会員数148人を擁していた峡西（現・南アルプス）ライオンズクラブに入会した。

「入会前、例会にどのくらい出席出来るか聞かれ、50％ぐらいと答えたところ、100％を目指す気がないなら入会は遠慮してください、と。それで100％を目指しますと答え直し、入会を許されました（笑）」

言葉通り皆出席を続けるうち、先輩たちが認めてくれるようになった。徐々に役を与えられ、それをこなす中で、クラブの活動に楽しみを見いだすようになった。そんな折、地区で青年部委員会が発足した。南アルプス ライオンズクラブから出ていたゾーン・チェアパーソンは、その委員にクラブ最年少のライオン川手を推薦した。

委員会はその後、青年参加促進委員会、青年アカデミー委員会と名を変えたが、一貫して若手の育成を目的とした。その中でライオン川手は2年目に副委員長、3年目には委員長を務めた。ライオン誌日本語版創刊50周年記念の論文募集「明日のライオンズを考える」では、委員会メンバーが地区内を回り応募を呼び掛けた。その結果、若手会員が優秀賞と入賞に入り、具体的な成果を出した。

地区人事の一件を知ったのは、そんな矢先だった。08年3月、ライオン誌創刊50周年記念の会が開かれ、論文入賞者の表彰があった。ライオン川手も同席したが、気持ちは晴れなかった。そんなライオン川手の思いを知ってか知らずか、記念の会終了後、同じ地区の先輩から二次会に誘われた。ライオン川手は気乗りがしないまま付いて行った。二次会にいたのは、3年前の仙台OSEALフォーラムで全国レベルのミニ・フォーラムを企画し実行した若手会員たちだった。その席でライオン川手は彼らと熱く語り合い、ライオンズには悪い面も確かにあるが、それを上回るすばらしさがあることを改めて感じた。そして後輩たちのために、ライオンズの良い部分を伸ばしていくことも、青年アカデミー委員長を引き受けた自分の役割かもしれない、と考えるようになった。

その後の活動には迷いがなかった。4カ月後には若手中心の新クラブを結成。これも、若い人にライオニズムの良さを伝えるための方策だった。

「3年、5年のスパンでクラブを考えている人が少ない。次代にいい形でバトンタッチしていくことを会員一人ひとりが考えてほしい」

また、失敗という階段を上がった先に成功の扉があるというライオン川手は、チャレンジにも貪欲だ。企業内クラブの結成もその一つ。ライオンズのリーダーシップ育成プログラムを企業で活用し、アクティビティのノウハウを生かして地域貢献する。これならまだまだエクステンションの可能性は大きいと話す。

ここ数年、他地区で若いガバナーが何人か誕生している。次年度は自分もその立場になるが、後に続く人たちにタスキをつなげるよう、しっかりチャレンジしたいという。

■川手寅平
かわて・とらへい

1962（昭和37）年12月生まれ。㈱T・H・G代表取締役、医療法人社団高原会常務理事。2002年9月山梨県・南アルプス ライオンズクラブ入会。07年度330-B地区青年アカデミー委員会委員長、08年7月山梨アカデミー ライオンズクラブ転籍チャーター・メンバー、初代会長、09年度ゾーン・チェアパーソン。今年度330-B地区第1副地区ガバナー。

2012年の釜山国際大会「クラブ・サクセスの秘訣」セミナーでプレゼンテーションを行うライオン川手→

●ライオンズクラブ・リーダーへの道――城阪勝喜第1副地区ガバナーの場合

協調型リーダーが目指すのは、地区内クラブの応援団長

7月からの新年度、335‐B地区で初めて戦後生まれの地区ガバナーが誕生する。城阪が地区のリーダーとなるきっかけは、クラブ会長時代の事業にある。

2000‐01年度、40周年を迎える大阪港ライオンズクラブの会長に就任した城阪は、式典当日に関西フィルハーモニー管弦楽団の記念コンサートを企画。港区内の中学・高校生250人を招いたコンサートは大成功を収めた。この時の手腕を評価し、将来のリーダー候補と見初めたのが、当時のゾーン・チェアパーソンで、2011‐12年度地区ガバナーを務めた津田祐司だった。2年前、地区役員の経験も少なく、ガバナー就任など想像したこともなかった城阪の背中を押して第2副地区ガバナー立候補を決意させたのは、津田が寄せてくれた強い期待と、結成から半世紀を経て初の地区ガバナーを出そうというクラブの気運だった。

亡くなった父の跡を引き継ぐ形で大阪港ライオンズクラブに入会。それから4年目に幹事、8年目には節目となる結成40周年の会長を務めた。入会から比較的早い時期に責任ある役を任された背景には、やがてクラブを背負う人材に育てようという先輩たちの期待があったのだろう。その後ゾーン・チェアパーソンを務め、10‐11年度に再びクラブ会長に就く。50周年に当たるこの年度は、当初城阪のスポンサーで入会したメンバーが会長就任の予定で、桜100本を植樹して桜ロードを作るという記念事業が計画されていた。JC時代の経験を生かしたこの企画は、市民スポンサーを募るという、クラブでは前例のないもので、城阪は何とか実現させようと全力でサポートに当たっていた。しかし当のメンバーが事情により会長職に就けなくなり、急きょ城阪がその任を務めて事業を成し遂げた。

「一度目の会長の時は先頭に立って引っ張っていくタイプでした。それが50歳を過ぎる頃から変化して、二度目の時はみんなの意見を聞いてまとめていく協調型だったと思います。企業であれば一つの目的に向かい明快に進んでいけますが、ライオンズでは会員は多様な要求を持っている。奉仕はもちろん、地域に友人を作りたい、異業種の人脈を広げたいという人もいる。奉仕活動もクラブごとに多種多様です。ガバナーとして皆さんの声をよく伺いながら、それぞれのクラブが活動しやすいように、応援団長的な役割を果たしていきたいと考えています」

335‐B地区では2年前から次世代リーダー育成委員会を置き、次のリーダーを育てる2年間の研修プログラムを実施中だ。また今年度は地区内交流を図ろうと、訪問履歴を記録する「カルチャー・カード」を配布して例会訪問を奨励している。

「津田ガバナー、菅春水ガバナーと、地区ガバナー・チームで共に活動してきた先輩たちが非常に良いアイデアを実行に移してこられました。私はこれを継承し、発展させていきたいです」

若い世代へライオンズの精神を継承していくためにも、魅力あるクラブ作りに力を尽くしていく。

■城阪勝喜
しろさか・かつき

1951（昭和26）年3月生まれ。松栄㈱代表取締役会長。93年10月大阪港ライオンズクラブ入会。96年度幹事、00年度、10年度クラブ会長、04年度ゾーン・チェアパーソン。今年度335-B地区第1副地区ガバナー。

被災地のライオンズは今

岩手県・大船渡、大船渡五葉ライオンズクラブ

被災地へ寄せる気持ちが子どもたちに勇気と希望を与える

大船渡市は市の中心となるJR大船渡駅周辺地区に土地区画整理事業を導入し、住宅や商業地を再建する計画を決定した。事業区域は、津波で壊滅状態となった地区で、大船渡駅を中心とした37・8ヘクタール。土地のかさ上げや道路整備が終わるのが6年後、清算まで含め事業が完了するのは9年後の2022年となっている。

現在、この地域には、大船渡ライオンズクラブ（金野栄一会長／63人）の事務局兼例会場や、ライオンズが厨房設備などを支援した大船渡屋台村（大船渡ライオンズクラブ北支部）など、幾つかの仮設事務所や店舗が建ち、また地元資本のスーパーやホテルなども元の場所で再建し営業している。が、それも数は少ない。夜になると、大船渡屋台村の他、数軒の店の灯りがあるだけで、周囲はほとんど闇に包まれている。

しかも、土地区画整理事業の対象地域になっているため、こうした事務所や店舗は別の場所への移転が求められる。市が移転先を示すのは来年3月で、移転が決まれば建物は取り壊され、一時的に休業状態になる。全体の事業が完成するのは9年先との方針に、市民からは「時間がかかりすぎる」「将来像が見えない」などの不安の声も聞かれる。

そんな中、不通となっていた大船渡線の気仙沼（宮城県気仙沼市）・盛（大船渡市）間で、バス高速輸送システム（BRT）の運行が3月2日スタート。震災前は上下19本だった運行数が51本に増え、駅前には客待ちのタクシーが戻って来た。更に4月3日には、やはり不通だった三陸鉄道南リアス線のうち、大船渡市内の盛・吉浜間が運転を再開。2年ぶりに、大船渡に列車が走る光景が復活した。

また、大船渡ライオンズクラブにも、ボランティアから明るい話題が提供された。がれきの中から見つかったクラブの写真を、ボランティアが奇麗に泥を落とし、新しいアルバムに収めて届けてくれたのだ。チャーター・メンバーの顔写真や、古いアクティビティ、周年行事など、クラブの思い出が帰って来た。1冊のアルバムの最後には、写真と一緒に見つかったメモも入っていた。

「L○○○が死去されました。奥様から『主人はライオンズクラブの歌を歌いながら息を引き取りました。葬儀でライオンズクラブの歌を歌ってくださることが、故人に対する最大の供養になります』との申し出がありました。そこで葬儀には、当クラブ会員全員が参加し、ライオンズクラブの歌を歌い、故ライオンの冥福を祈りました」

ライオンズが大好きだった先輩のエピソードは、復興に当たる会員たちの力になることだろう。

大船渡ライオンズクラブの仮設事務局兼例会場（15坪）は東日本大震災指定交付金を受け、震災前に例会をしていた結婚式場の駐車場を借りて建てた。仮設トイレと物置は「全国リバティ同名クラブ」から寄贈されたもの

がれきの中からよみがえった、古いモノクロのアクティビティ写真

津波で骨組みだけになった「時習館」

LCIFの支援で柔道場を再建

JR大船渡線と三陸鉄道南リアス線が乗り入れ、それぞれの起点・終点となっている盛駅。大船渡駅に比べると内陸寄りだが、駅周辺は川をさかのぼった津波で、多くの建物が損壊した。盛駅から約1キロ、南リアス線の線路沿いにあり、盛川とその支流の小さな河川に囲まれた「時習館」柔道場も、骨組みだけを残し、全てを流されてしまった。

大船渡の柔道協会は1950年に発足。時習館が開館したのは73年で、今年で40周年となる。震災前は園児から中学生を対象にした柔道教室も開かれ、子どもたちが稽古に励んでいた。

再建された「時習館」。温かい光にあふれている

震災から3カ月が経った5月15日、元柔道金メダリストの古賀稔彦氏が大船渡を訪問。高台にある大船渡高校の柔道場を借り、時習館の子どもたちのために柔道教室を開き激励してくれた。

古賀氏はその後、仕事で佐賀県有田町へ出掛けた折に、知人が勤める町役場を訪ね、たまたま有田中学校の柔道畳を入れ替える話を聞いた。古賀氏はすぐに時習館のことを思い浮かべ、入れ替えた畳を寄贈してもらえないか、その場で町長に相談。町長はこれを快諾し、有田中で使っていた畳約100枚が、時習館へ贈られることになった。しかも町議会は、畳処分費として計上予定だった21万円を運搬費に変更。善意の輪は更に広がった。

毎週月曜、水曜、金曜の午後6時からは小学生の稽古が行われている

一方、時習館では、道場再建のめどが立たず、古賀氏の柔道教室の後も、大船渡高校の柔道場を借りて、稽古を続けていた。これを知った大船渡五葉ライオンズクラブ（長谷川瑞彦会長／30人）は、キャビネットに相談の上、時習館再建のため東日本大震災指定交付金を申請。復興対策本部の承認を得て、交付金1899万8278円で道場を修復した。

昨年7月28日に行われた復旧落成披露式には、戸田公明市長や岩手県柔道連盟の千葉翠会長らが出席、ライオンズ・メンバーを始め関係者と共に完成を祝った。道場には有田中から贈られた畳が敷き詰められ、少年部の子どもたちが早速、その畳の上で熱のこもった稽古を披露した。

現在、時習館に通ってくる小学生以下の子どもは30人。震災前の17～18人よりも増えている。被災地ではスポーツをする機会や場がいまだ少ないこともあり、再建された時習館に人気が集まっているそうだ。そんな子どもたちのために、兵庫県・明石ライオンズクラブから50万円が寄託され、大船渡五葉ライオンズクラブを通じて柔道着などが子どもたちに贈られた。

道場には、世界中の子どもたちが書いた寄せ書きが「ガンバレ日本　負けるな友！」の文字と共に掲げられている。多くの人の温かい気持ちが、子どもたちに勇気と希望を与えている。

（取材／鈴木秀晃）

■国際理事
秦従道
（宮城県・仙台コア）

山田實紘国際第2副会長の実現へ！

この原稿が掲載される頃には、更に盛り上がっていると思われるが、国際協会大会部からの連絡によると、3月11日現在のハンブルク国際大会の事前登録者数は1万9087人と、目標の2万人突破が目前に迫った。主要な内訳はドイツ4937人、日本3462人、アメリカ1437人、フランス1200人、中国1062人で、日本が大健闘している。ある意味これは当然のことであろう。何と言っても日本から国際第2副会長候補が出るのだから。

思えば1981年に村上薫国際会長を輩出して以来、途中非常に残念なことにライオン小川清司が第1副会長の時に逝去し、実に三十数年ぶりの国際会長誕生となるのだから期待に胸躍るのももっともな話である。

もちろん私もライオン山田に大きな期待を寄せている訳だが、それには理由がある。ライオン山田の豊かな発想力と実行力だ。

こんなエピソードがある。ライオン山田が発案された、万里の長城への植樹・風化防止活動の話だ。宇宙から見える唯一の地球上の建造物である万里の長城を守ろう。そんな事業を考えつくスケールの大きさもさることながら、聞いてびっくりのアイデアだったのだ。「切れない木」という発想だ。

万里の長城には土塁部分も多く、放っておくと風化してしまう。そこで保護をする緑木が必要になるのだが、そのために植えた木を現地の人たちが燃料や建築材料用に切ってしまうという。それではせっかく植樹をしても、関係者が去った後は元の木阿弥になるのではないかと、ちょっと深読みする人であれば簡単に考えつくであろう。

そこで登場するのが「切れない木」である。実は私もちょっとしたアイデアマンと言われているのだが、これには「そんな硬い木があるのか?」という疑問が湧いた。

ところがその答えは意外や意外、物理的な硬さではなく、経済的な堅さのことだった。つまり切りたくても切れない木とは、鋼鉄のように硬い木ではなく、切ったら損をするという木のことだったのである。

具体的には天津甘栗に使うシナグリの木だったそうだが、実がなれば利益が出るので切ったら損（儲け損ない）をするという、経済原理を応用した植樹法だったのだ。まさに学者も唸らせる見事な発想である。

その他にもライオンズのノーベル平和賞受賞を呼び掛けたり、家族会員制度にいち早く着目されたり、トヨタに働き掛け国際大会のアトラクション用にプリウスを提供してもらうなど、まさに豊かな発想人と言うべきであろう。

この能力はこれからの国際協会の発展に不可欠であり、私たちは単に同胞だからという理由ではなく、世界的かつ客観的に見て、実に適任であるから送り出している、ということをアピールする必要があるだろう。

ハンブルクでの歓喜のパレードを期待するゆえんである。

↑村田副知事に検診車のキーを手渡す坂本ガバナー
←受納式後は車内で、久保田善九郎前地区ガバナーを受診者に見立て、鈴木眞一福島県立医科大学教授によるデモ検査が行われた

福島県に甲状腺移動検診車を寄贈

332‐D地区（福島県／坂本勇地区ガバナー）から福島県に甲状腺移動検診車2台が寄贈され、3月26日、福島市の福島県庁前広場で受納式が行われた。検診車には、昨年10月に寄贈した甲状腺超音波画像診断装置が2台ずつ搭載され、今後、県内各地を巡回して検査を実施する。対象となるのは、東日本大震災発生時に県内に居住していた、おおむね18歳以下の約36万人。チェルノブイリ原発事故の知見から、甲状腺に放射線の影響が出てくるのは4～5年後とされており、現在は対象者の状態を把握する「先行検査」の時期となっている。来年から全県で始まる「本格検査」は20歳までは2年ごと、それ以降は5年ごとに一生涯実施することになる。受納式に立ち会った村田文雄副知事は「大規模かつ長期にわたる検診のため、会場設営や撤収作業等が不要な移動検診車は大変有効」だと大きな期待を寄せていた。

なお、本誌12年12月号「被災地のライオンズは今」及び13年3月号本欄既報の通り、ライオンズクラブでは甲状腺検査関係の他にも、内部被曝線量を測定するホールボディカウンター3台を福島県内の病院に寄贈。これらは日本病院会の協力で実施され、事業総額は約2億6千万円、東日本大震災指定交付金から拠出された。

地区年次大会が開幕

4月7日、福岡市のアクロス福岡を会場に、337-A地区（福岡県）の第59回年次大会が開かれた（写真）。7日には他にも、336-C地区（広島県）、337-C地区（佐賀県・長崎県）、337-E地区（熊本県）が年次大会を開催。この日を皮切りに5月25日の331-B地区（北海道道東・道北）まで、週末ごとに全国の各地区でライオンズが集い、今年度の成果を確認し、交流を深める。

複合地区年次大会は5月12日に330、337複合地区からスタート。6月9日の334複合地区で閉幕となる。

写真／ﾗｲｵﾝ荒巻敬一郎（福岡舞鶴ライオンズｸﾗﾌﾞ／ライオン誌サポーター）

ハンブルクへ行こう！　第96回ライオンズクラブ国際大会情報

国際大会は学びの場でもあり、クラブ運営やアクティビティに関する数多くのセミナーが開かれる。ここで紹介するのはごくわずかだが、大会プログラムで興味のあるセミナーを探してみよう。日本語セミナー以外は英語だが、会場では海外のライオンズの熱気が感じられ、言葉が分からなくても楽しめるダンスのイベントもある。

■ダンスで楽しく糖尿病教育（英語）

7月5日（金）13:00〜14:30

国際大会のセミナーの一つとして実施される「糖尿病教育ストライズ（Strides）」。アメリカでは糖尿病に対する意識向上と糖尿病予備軍の健康増進のため、ウォーキングやサイクリング、ダンスなどのイベントを企画するアクティビティ「Strides」が盛んに行われている。このセミナーは参加者全員で大会展示場内をウォーキングして、これを体験しようという恒例の催しだ。今回はそのダンス・バージョン。ドイツ・ライオンズ交響楽団の生演奏に合わせてダンスを楽しみながら、糖尿病教育の必要性を考える。参加者には「Strides」ピンと参加証明書が配られる。

■日本語セミナー「奉仕の世界を広げよう」

7月7日（日）13:30〜15:00

テーマは「奉仕の世界を広げよう：新クラブ結成と新会員の招請」。韓国語、中国語でもそれぞれ同じテーマで行われるこのセミナーは、新クラブ結成の効果的な戦略を伝授し、奉仕の目標を達成するために会員の増強を図ろうという既存クラブに役立つ情報を提供する。

■「ライオンズの将来に女性と家族の参画を」（英語）

7月7日（日）14:00〜15:30

昨年度から設けられている国際理事会の特別委員会で、今年度は高田順一国際理事が委員長を務める「女性及び家族会員増強タスクフォース」は、この2年間ライオンズにおける女性と家族の参加促進について多くの情報を収集してきた。その調査結果と、ドイツのライオンズによる具体的な成功事例から学ぶセミナー。

ここで紹介したセミナーは、いずれもハンブルク・メッセ＆コングレス（HMC）を会場に開かれる。

＊本欄掲載のプログラムには変更が生じる場合があります。日時や会場は現地で配布される大会プログラムで確認してください。

日本GMT、年度末の会員減少阻止を目指し6月を退会防止月間に

3月26日、東京都中央区の日本ライオンズ連絡事務所で開かれた八複合地区GMTコーディネーター会議において、日本GMTとして6月を「会員増強・退会防止月間」とすることを決定した。毎年6月に、大量の退会者が出ていることが、年度末の大幅な純減につながっていることから、重点的に退会防止に取り組むよう各地区、クラブへ働き掛ける。

GMTはクラブが会員維持、退会防止を進めるためのツールとして、「クラブ向上プロセス（CEP）」や「クラブサクセス・ワークショップ」の活用を推奨している（27ページ「GMT／GLT通信」に関連記事）。

330複合地区で環境事務次官を招いたセミナー

330複合地区環境保全委員会（山下秀男委員長）は2月27日、東京都中央区の複合地区事務局会議室で、同複合地区及びA、B、C各準地区環境保全委員を対象にしたセミナーを開催。堂屋敷淳複合地区委員の尽力により南川秀樹環境事務次官の講演が実現し、内容の濃いセミナーとなった。講演は「環境にやさしい取り組み～世界をリードするグリーン成長国家の実現～」の演題で、福島原発事故後の除染や廃棄物処理問題にも触れつつ、地球温暖化問題に対し環境省が取り組む姿勢が語られた。温暖化防止の取り組みとして、家庭及び仕事場でのライフスタイルの変革を幅広く呼び掛けていること、今後は太陽光発電、LED化、電気自動車の使用等を積極的に推進し、同時にリデュース、リサイクル、リユースの3Rを推進することを挙げ、実現には国民の意識向上と行動が不可欠だと訴えた。セミナーに出席した河合悦子330複合地区議長は「ライオンズクラブにおいて長年にわたり取り組んできた環境保全活動も、同じ方向性を示しています。奉仕団体としての役割を再確認する貴重な機会となりました」と話している。

■第51回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラム収支計算書

2012年12月31日
第51回東洋・東南アジア・ライオンズ・フォーラム組織委員会

収入の部　（単位：円）

科　目	予算額	決算額	差額
登録料	124,000,000	164,869,298	40,869,298
支援協力金（MD330～337）	186,000,000	131,406,166	△54,593,834
フォーラム支援募金	2,250,000	0	△2,250,000
福岡県助成金	3,000,000	500,000	500,000
福岡市助成金		3,000,000	
晩餐会登録料	6,000,000	6,193,414	193,414
337複合地区繰越資金	0	19,804,988	19,804,988
受取利息	0	14,161	14,161
雑収入	0	1,232,075	1,232,075
合計	321,250,000	327,020,102	5,770,102

支出の部　（単位：円）

科　目	予算額	決算額	差額
荷造運賃	0	136,751	136,751
給料手当	8,000,000	9,286,325	1,286,325
賞与	1,000,000	1,000,000	0
法定福利費	800,000	947,489	147,489
広報費	10,150,000	6,658,575	△3,491,425
第1回ステアリング委員会費	14,624,828	14,756,735	131,907
大会会議費	10,000,000	3,847,075	△6,152,925
賃貸料	1,170,000	1,508,140	338,140
リース料	1,080,000	1,081,342	1,342
フォーラム視察費	9,960,255	6,040,624	△3,919,631
事務用品費	120,000	108,753	△11,247
消耗品費	1,200,000	1,950,566	750,566
水道光熱費	150,000	160,848	10,848
旅費交通費	12,000,000	12,122,324	122,324
手数料	0	214,573	214,573
訪問・案内費	7,500,000	9,864,995	2,364,995
保険料	2,500,000	55,420	△2,444,580
通信費	1,500,000	1,979,908	479,908
制服・ピン代	3,966,900	4,455,900	489,000
通訳費	4,200,000	3,560,233	△639,767
同時通訳ラジオ費	13,000,000	11,630,000	△1,370,000
登録システム諸費	4,500,000	1,509,175	△2,990,825
事前会議費	5,000,000	3,605,661	△1,394,339
セミナー諸費	10,000,000	5,954,325	△4,045,675
印刷費	11,500,000	13,447,291	1,947,291
什器備品費	770,000	1,561,941	791,941
会場費・設営費	31,900,000	37,520,015	5,620,015
外注賃金	2,600,000	3,883,212	1,283,212
製作費	7,111,600	13,159,280	6,047,680
ホームページ製作費	3,000,000	3,147,000	147,000
記念品代	13,650,000	50,755,863	37,105,863
フードフェスティバル	24,000,000	16,501,151	△7,498,849
開会・閉会式	47,500,000	56,299,960	8,799,960
雑費	1,110,000	2,885,478	1,775,478
車両チャーター費	9,100,000	8,819,596	△280,404
委員会運営費	5,500,000	0	△5,500,000
国際会長晩餐会・夕食会	14,000,000	16,603,578	2,603,578
予備費	27,086,417	0	△27,086,417
支出合計	321,250,000	327,020,102	5,770,102
収支差額	0	0	0
合計	321,250,000	327,020,102	5,770,102

（2010年7月1日～2012年12月31日）

会議録

■第3回複合地区YE委員長連絡会議（2月1日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：後藤忍、丑田陸男、岡田繁雄、上出正博、吉田宏、宇髙昭造、鈴木正伸各委員、渡邊千秋委員代理、河合悦子議長）

①春・夏期交換Ⓐ派遣生Ⓑ来日生②ウェブ会議の利用推進③ユースキャンプ及び交換プログラ

ム・ディレクトリへのキャンプ情報掲載

■**第7回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議**（2月28日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：河合悦子、中嶋辛、田畑英伍、高田浩、杉浦均、奥村啓二、寺越愼一、澁田繁晴各議長、高田順一、武久一郎両国際理事）

【議長協議】①第51回OSEALフォーラム（福岡）支援のお礼と決算報告（337複合地区）②第99回福岡国際大会協力のお願い（337複合地区）③336複合地区提案事項④確認及び報告事項⑤日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑥委員会・会議報告⑦その他【国際役員との懇談】⑧講師育成研究会（FDI／4月26日～29日台湾・台北）⑨国際アワード申請状況⑩RAPキャンペーン

■**第7回東日本大震災復興支援対策本部会議**（2月28日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：山浦晟暉元国際理事、高田順一、武久一郎両国際理事、河合悦子、中嶋辛、田畑英伍、高田浩、杉浦均、奥村啓二、寺越愼一、澁田繁晴各議長、千葉龍二郎、佐藤義則、坂本勇各地区ガバナー、吉田宗一郎監査役）

①前回会議要録の確認②332複合地区の新規申請③LCIFの回答④各種報告⑤アラート・フォーラム関係⑥承認リストと事業完了報告

■**第2回複合地区会則委員長連絡会議**（3月1日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：金子圭賢、古谷野環、髙橋晴彦、立原祐司、土屋誠司、大石巖、光貞正明、千阪治夫各委員）

①第1回会議要録の確認②継続審議事項③複合地区会則改正の検討（333複合地区提案）④インディアナポリス国際理事会決議事項の確認⑤2013・14年度役員必携の改訂⑥2013・14年度役員必携の頒布方法

■**第8回ライオン誌日本語版委員会**（3月8日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：久津間康允、茂尾実、中居雅博、小西宗仁、矢口武克、団英男、組嶽晶一、田崎登保各委員、小柴登司ITアドバイザー〈オンライン〉）

①2012・13年度ライオン誌日本語版事務所上半期監査委員監査報告②2012・13年度ライオン誌日本語版事務所上半期国際本部提出収支計算報告③ライオン誌日本語版事務所の運営④2013年3月号（10万600部発行）出来⑤4月号記事内容の確認⑥5月号以降台割（案）と主要記事予定⑦若手会員フォーラム⑧その他

■**第3回複合地区IT委員長【ウェブ】連絡会議**（3月11日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：中島洋吉、牧野修一、寒河江潤一、星宏信、伊勢豊彦、中田勝昭、玉浦巖、八並信各委員長、八木拓也、吉岡稔隆、早川良貴、出田秀、宇髙昭造、宮川健一郎各IT専門委員）

①本年度の審議課題⑴ウェブ会議システムmeetingplazaによる複合地区間接続⑵他連絡会議へのウェブ会議システム活用⑶複合地区内のウェブ会議推進⑷議長連絡会議ホームページ⑸次年度役員必携への更新事項

■**第6回複合地区国際大会委員長連絡会議**（3月14日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：桜井孝一、瀧澤嘉門、阿部清基、塚田雅二、石井博之、杉江健次、三谷智省、林榮一各委員長、杉浦均議長、中林治光333・D地区国際理事候補者支援委員会委員、鈴木誓男334複合地区国際第2副会長立候補者支援委員長）

【第I部委員長協議】A第96回ハンブルク国際大会①大会登録者数及び代議員予備登録者数情報②インターナショナル・パレード③日本ライオンズ代議員会・ジャパンレセプション（有料、登録制）【第II部複合地区公認ツアーコーディネーターとの協議】Bハンブルク国際大会全般の確認事項①大会最新日程②代議員資格証明及び投票関連情報③各複合地区割り当てホテル④DGEツアー関連 C第52回東洋・東南アジア・フォーラム（シンガポール）

新結成／解散クラブ

■**新結成クラブ**

東京表参道（松浦辰吉会長／24人）▼3月26日認証▼スポンサー／東京麹町、東京キング

京都モーニング（村上紘一朗会長／22人）▼4月1日認証▼スポンサー／335・C地区キャビネット

■**解散クラブ**

3月＝新潟県・津南

訃報

■**献眼**

2月＝ライオン久保田登（茨城県・内原）／ライオン大木良一（茨城県・真壁）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

GMT／GLT通信

クラブサクセス・ワークショップがもたらす成果

2月号本欄で紹介した「クラブサクセス・ワークショップ」は、クラブの会員維持に焦点を当て、ディスカッションで問題点を探り、行動プランを策定するワークショップ。334‐C地区（静岡県／岡野良隆地区ガバナー）は09年度から毎年、高田順一GMTエリア・リーダー（西日本担当／国際理事）を講師に招いて地区レベルでワークショップを開いている。今年度も昨年10月に地区内クラブの第1副会長とGMT／GLTリーダーを対象に開催。終了後に実施したアンケートの結果、117人中109人がワークショップが有効だと回答した。地区GMT／GLTはこれをクラブに持ち帰り、例会などで実施するよう推奨している。

その後、ワークショップを実施したクラブが地区に提出した報告書では、クラブが抱える問題点を見据えて、さまざまな行動計画が提案されている。例えば次のようなものだ。

- ●入会候補者リストを作成し、人脈重視で3人1組の会員勧誘チーム編成
- ●ケーブルテレビの活用、独自のビデオやパンフレット、イベントでPR
- ●同好会・委員会を増やすと共に地域別懇談会等を開き、会員間の交流を活発にする
- ●定期的に若いメンバーとベテラン・メンバーの懇親会を開催
- ●新人フォローアップ・セミナー実施
- ●新会員に名刺を支給
- ●会費の見直し

報告者の9割近くが、このワークショップがクラブサクセスに有効だと評価するコメントを寄せた。

「メンバーが積極的かつ真剣に問題点の把握に取り組む姿勢が見られ、意識の向上にもつながる。退会防止のためのワークショップではなく、クラブに活気を生み出すワークショップにした方が取り組み方が積極的になると考える」（田中文規／袋井ライオンズクラブ青少年・クエスト委員長）

「（提案された行動計画は）例会出席率を高める工夫など、すぐにでも実行出来そうな案件なので、早めに実行したい」（諸星金悟／浜松グリーンライオンズクラブGMT・GLT委員長）

「メンバーの組織に対する考え、思いがよく分かった。特に新会員とのコミュニケーションが出来た。再開催の要望あり」（石井秀英／伊東ライオンズクラブGMT・GLT委員長）

「一人ひとりの意見を十分に聞いて討議する形態が、メンバーのやる気を喚起させ、大変良い」（伊藤道明／菊川ライオンズクラブ第1副会長）

「クラブの問題点について予想していた以上に熱心な討議になった。ディスカッション・グループは年代を幅広く組み合わせて構成し、普段あまり話す機会がないメンバー同士が意見交換出来る貴重な機会となった」（小池禮二／沼津ライオンズクラブGMT・GLT委員長）

「会員がクラブの来し方を見つめ直す良い機会を与えてくれる。毎年繰り返すことで会員相互の意思疎通が良くなると思う」（小柳嶺雄／静岡弥生ライオンズクラブ会長）

「クラブサクセス・ワークショップ」のガイドブックはライオン誌ウェブマガジン(thelion-mag.jp)の「各種書式／ロゴ ダウンロード」で入手出来る。

LCIF FILE

Foundation Impact / LCIF Development Update

Foundation Impact

東ヨーロッパに広がる ライオンズクエスト・プログラム

いじめ、友達からのプレッシャー、薬物乱用、その他さまざまな問題行動。世界中の全ての子どもたちが、年齢を問わず、日々これらの問題に直面している。

それを解決するためライオンズは、子どもたちがライフスキルを習得出来るようライオンズクエスト・プログラムを提供している。ライオンズクエストは社会的、情緒的に健全な青少年を育てるための学校の取り組みに活用されている。

ライオンズクエストのもたらす効果は絶大だ。しかし、確実な成果を導き出すためには、教育関係者へのトレーニングが不可欠。そのため、ライオンズクエスト・ブルガリア財団は今年1月、ライオンズクエスト・ヨーロッパ大会を主催、18カ国の代表が参加しプログラムに関する知識と過去の実績を学んだ。

ライオンズクエスト・ブルガリア財団の会長ペタル・マラモフ前地区ガバナーは、2010年に初めてライオンズクエストをブルガリアに導入した。以降、ライオンズとブルガリア教育省との間に強力なパートナーシップが築かれ、今年4月末までに国内8都市で教育関係者のためのワークショップが開催される予定だ。

ライオンズクエストはトルコでも発展を続けている。初めはイスタンブールにある小さなクラブが始めた活動だったが、現在は国から援助が受けられるほどの大きなプロジェクトとなった。初年度には、八つのワークショップを通じ200人の教育関係者にトレーニングを実施、これにより約10万人の子どもたちがライフスキルを学ぶ機会を得ることとなった。

「子どもは自分に自信を持つことで、社会性を身に付け、成長することが出来ます。そこには情緒的な安定や知的な思考・行動が自然と伴ってきます。つまり、ライオンズクエストを受講した子どもたちは、幸せな学校生活を送れるようになるということです」

こう話すのは、ライオンズクエストのコーディネーターを務めるシマ・サンダー（マヴィハリックライオンズクラブ）。

「一方、教師はカリキュラム通りに授業を進めることが出来ます。なぜならライオンズクエストを受講した生徒のいる教室には、授業の妨げとなる問題がほとんど起こらないからです」

地元ボスポラス大学平和教育研究所が行ったライオンズクエストに関する調査によると、ライオンズクエストは平和的な教育環境を整え、子どもたちの前向きな思考や行動を生み出すと結論づけられ、サンダーの見解が正しかったことが証明されている。

最近では、マケドニア旧ユーゴスラビア共和国にライオンズクエストが導入されている。最初のワークショップは昨年12月に開催され、36人の教育関係者が中学生を対象としたプログラムについてのワークショップを受けた。今後は更に対象学年を拡大するという。奉仕活動が盛んな学校では、ライオンズクエストの導入により、地域社会への貢献が強化されるはずだ。

東ヨーロッパにおけるライオ

ンズクエストの拡大は、LCIFの長期的な交付金により実現した。2002年には、アメリカ国際麻薬・法律執行局と協力し、チェコ、ハンガリー、ポーランド、ロシア、ウクライナなどの国々で、ライオンズクエストの広報活動と導入促進を行った。

ライオンズクエストは多くの国で定着してきている。リトアニアのライオンズは、プログラム拡大のため50万ドル以上の交付金を受け取った。2012年、国連国際薬物犯罪事務所（UNODC）はLCIFと提携し、独自の家族向けライフスキル・プログラムとライオンズクエストを融合させた新しいプログラムを作成、セルビアやモンテネグロで試験的に実施されている。更に、スロベニアにもLCIFの交付金が拠出され、ライオンズクエストの発展に利用される。

今秋、トルコで開催される第59回ヨーロッパ・フォーラムでは、こうした東ヨーロッパでのライオンズクエストの実績が紹介され、1200万人以上の子どもたちにもたらされた成果が報告されるはずだ。

LCIF Development Update

第3回LCIF国際委員・コーディネーター会議

第3回LCIF国際委員・コーディネーター会議が3月15日、愛知県名古屋市で開催されました。LCIFステアリング委員で日本リーダーの栢森新治元国際理事、東西エリア・コーディネーター、各複合地区コーディネーター、及び田辺憲雄LCIF資金開発課課長が出席。情報共有、現状認識と今後の課題、国際会長・LCIF理事長連名の要請文（LCIF理事長任命の地区コーディネーターを来期から原則地区ガバナーとする）等について協議し、方向性を確認しました。

また協議に先立ち、榎本舜治334複合地区コーディネーターから、1月末現在の献金実績が詳細に報告されました。前年同月比で献金総額はマイナス6%、MJF献金はマイナス5・8%と厳しい状況になっています。

この中で私が着目し、今後改善すべき重要課題と認識したのは、献金総額の79%をMJFが占めている点です。MJFは全会員の4%に過ぎません。つまり4%の会員が献金の79%を支えているのです。LCIFは1968年の創設以来、ウィ・サーブを実証する人道的活動を通じ、世界に貢献を続けています。それを可能にするのが皆さんからの献金です。4%の方々に支えて頂いている構図を変えましょう。平等に貢献する少しの努力をして頂けませんか？　全会員が20ドルずつ献金し、献金会員になって頂くと、MJF依存度は66%程度になります。あるいは全会員が月1回、例会時にでも500円玉1枚を出し、年に6千円を献金すれば、MJF依存度は40%程度まで下がります。

我々コーディネーターの役割は会員の皆さんにLCIFを理解し協力して頂くこと。机上の空論ではなく、全世界で高く評価されているLCIFの活動をご理解頂く努力を惜しまず、協力をお願いしてまいります。まずは私の所属する330複合地区の皆さんに、世界中で支援を待ち望んでいる大勢の人たちのために希望の灯を照らしてくださるようお願いしてまいります。

（330複合地区コーディネーター／桜井孝一）

LCIF献金実績抜粋（2013年1月）

1. **全日本献金総額**
   483,844,302円
   ※対前年同月比△6.0%
2. **全日本MJF献金**
   383,372,427円
   ※対前年同月比△5.8%
   ・献金総額に占めるMJFの割合
   79.2%　※前年は78.2%
   ・全会員数に対するMJFの割合
   4,156人／103,176人
   ＝4.0%（92,246円／人）
3. **MJFを除いた会員1人当たりの献金額**
   100,471,875円／99,020人
   （1,015円／人）

CLUB REPORT
クラブ・リポート

334-E地区

長野県・伊那ライオンズクラブ

少年少女の長桂寺座禅体験

まだ少し寒さの残る3月31日早朝。長野県伊那市にある長桂寺には黄色いジャンパーを着たライオンズのメンバーが集まっていた。この日は伊那ライオンズクラブ（池田章会長／63人）が主催する座禅体験当日だ。

メンバーが準備をしていると、外から元気な声が聞こえてくる。子どもたちの到着だ。今年はミニバスケットボールチームやサッカーチームに所属している子どもたち72人が参加する。メンバーは子どもたちに、座禅と食事の作法が書かれたしおりを手渡していった。

全員がそろったところで長桂寺の内藤英昭住職から座禅の意義について説明を受ける。座禅を行う場所は本堂と隣接する座禅堂。本堂にはワインレッドのじゅうたんが敷かれ、その上に座禅をするための座布団「座蒲（ざふ）」が等間隔で置いてある。

靴下を脱ぎ、本堂に入った子どもたちはそれぞれ座蒲の上に座る。座禅の足の組み方はあぐらとは違う。しおりに書いてある説明を読んだり、内藤住職の説明を聞いたりしながら子どもたちは足を組む。

全員の準備が整うと鐘が鳴り、座禅開始。本堂に入るまで話をしていた子どもたちも静かに行っている。

座禅を始めてから終わるまでの40分間、静かな堂内には内藤住職が見回る音しかない。

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。
ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。
送付先は57ページ下。

メンバー夫人と女性会員が、おかゆの炊事を担当（上）
給仕は男性メンバーも行う。「おかゆ３杯で普通のご飯１杯分くらいだからね。いっぱいおかわりして」と声を掛けながら、おかゆを配っていく（下）

一方、厨房はにわかに慌ただしくなる。ライオンズ・メンバーの夫人や女性会員が中心となって、朝がゆを振る舞うからだ。この日のために米をとぐなど、前日から準備をしていた。朝がゆは梅、昆布、たくあんなどで食べる。質素ではあるが、素材の味が生きていておいしい。座禅を終えた子どもたちは何杯もおかわりをしていた。

伊那ライオンズクラブがこの座禅体験を行うようになったのは1987年のことだ。それから毎年続けている。もともと、クラブの中に長桂寺の檀家が多く、メンバーを対象とした座禅会を行っていたことがきっかけだ。それを青少年健全育成の一環として実施するようになった。

参加は主に市内のスポーツチームに所属している子どもたち。その子どもたちの試合やお寺の行事などを避けるため、日程調整には神経を使うという。また、多くの量を一気に作るため、おかゆの水の量にも気をつける。

こうした努力のかいもあって、この日の座禅体験も無事に終了。子どもたちは満足気に長桂寺を後にした。

（取材／井原一樹　撮影／関根則夫）

335-C地区

京都橘ライオンズクラブ

音楽祭と子育て支援セミナー

京都橘ライオンズクラブ（石倉宏会長／47人）では2012年11月に知的障がい者に対する事業を行った。視覚や聴覚に障がいを持つ人に比べ、知的障がい者に対する支援が少ないと思ったのがきっかけだ。

まず、11月16日に京都府宇治支援学校で行われた「第2回総合文化祭うじ えんJOYフェスタ」に参加し、「第2回橘音楽祭」を開催した。宇治支援学校は知的障がいと、肢体不自由の小、中、高校生を対象とした学校だ。

音楽祭の第1部ではグラウンドで京都産業大学全学応援団の吹奏楽部が演奏を行った。第2部は、当クラブのアシスタントを務めてくれている新真由美さんがピアノを担当するグループ「トリオ・シャンテ」のクラシック演奏と、当クラブの音楽同好会「ピラカンサス」によるバンド演奏が行われ、300人以上のお客さんに音楽と踊りを楽しんでもらった。

翌週の21日には、宇治文化センターで「子育て支援セミナー」を京都市教育委員会の後援で開催した。講師は『生きがいの創造』シリーズで知られる飯田史彦先生で、会場には京都府下の支援学校に通う児童生徒の保護者100人以上が集まり、講義に熱心に耳を傾けていた。

これらを通じて当クラブではノーマライゼーションの推進に少し寄与出来たと思う。だが同時に、企画した私たちが支援学校の児童生徒たちから教育目標である「自立～生活に生きるすべてを学ぶ」を教わったようにも感じた。これからも知的障がい者に対する支援を続けていこうと思う。（幹事／進藤久和）

333-E地区

茨城県・石岡ライオンズクラブ

筑波山麓茅刈り隊

石岡市旧八郷地区には、今も茅葺き屋根の民家が数多く残っている。石岡ライオンズクラブ（46人）は2012年12月9日、そうした屋根を葺き替えるための「茅」の刈り取り作業を行った。

筑波山麓の東側一帯は温暖な気候で、江戸に近いという立地にも恵まれ、食料基地として発展してきた。稲作の他に麦や大豆の二毛作が盛んに行われ、時が流れ江戸が東京に変わっても、安定した暮らしが営まれてきた。立派な茅葺き民家は、この地域の豊かな農業の象徴でもある。

かつては集落ごとに茅を共同で管理し利用していた。しかし、現在はそういった場もなくなり、大量の茅を手に入れることは非常に困難である。

そこで、2004年に旧八郷地区に出来た、「やさと茅葺き屋根保存会」が中心となって、つくば市の高エネルギー加速器研究機構敷地内の茅を刈り取るようになった。

実施した12月9日は快晴。クラブ・メンバーは茅を刈り、結束したものをトラックの荷台に運ぶ作業に汗を流した。この茅刈りには都市部からのボランティアの方も参加しており、その数は年々増加傾向にある。毎年刈り取ることにより、良質の茅が育つ効果もある。

近年、こうして維持している茅葺き屋根の民家を見学する観光客が増えてきている。だが、茅葺き屋根の民家周辺は居住地域だ。観光客の増加と共にそれを忘れたマナーの悪い見学者も増え、問題になっている。観光される方には許可を得てから屋敷の中に入って頂きたい。（会長／馬立孝男）

宮城県・仙台南ライオンズクラブ

仙台市太白少年少女発明クラブ

仙台南ライオンズクラブ（加藤勲会長／12人）は青少年育成事業として仙台市太白(たいはく)少年少女発明クラブを後援している。これは当クラブのライオン工藤治夫が立ち上げたものだ。

仙台市太白少年少女発明クラブは2005年1月に発足し、今年で8年目を迎える。「モノづくりを体験し、創造性豊かな人に」を目的としており、小学校から大学までの教職員及び地域企業の皆様の指導を受けて活動している。東日本大震災後に注目を集めた自然エネルギーにも8年前から取り組み、「未来を拓く自然エネルギーの活用」をテーマに太陽光、風力、水力等のエネルギーを学んできた。

その成果の一端として12年12月15日には太白小学校校門に、子どもたちがデザインし発光ダイオードで手作りしたイルミネーションの点灯式を行った。

太陽光、風力による発電装置、発光ダイオードでデザインされたイルミネーションは見事なものだった。点灯の瞬間は、携わった子どもも、大人も、地域の人々も皆感動に包まれた。

環境や自然エネルギーの話題は新聞やテレビでも数え切れないほど取り上げられている。地球に生きる全てのものが快適に生き続けられる環境を維持するためには、二酸化炭素をこれ以上出さないエネルギー開発が必要である。このことを子どもたちは敏感に理解し始めていると思った。

将来、この太白少年少女発明クラブが行う「創造物作り」の中から、日本や、世界をリードする人材が生まれることを願っている。（副幹事／田口正志）

335-B地区

大阪府・八尾ライオンズクラブ

八尾市立病院でのロビーコンサート、図書寄贈

2012年10月27日、八尾ライオンズクラブ（野澤藤吉会長／91人）は八尾市立病院でロビーコンサートを開催した。また、病院の図書コーナーへ、メンバーから寄せられた約500冊の真新しい図書の寄贈も行った。

当日、2階の総合受付前ホールには椅子が並べられ、普段とは少し違った雰囲気の手づくりコンサートホールに早変わり。入院されている患者の皆さんを始め、ライオンズのメンバー、ご近所の方など約270人に参加して頂いた。

また、来賓として、田中誠太八尾市長を始め、335・B地区の菅春水地区ガバナーやキャビネット役員・委員の方々、ブラザー・クラブの会長・幹事の皆様方も参加。コンサートに花を添えて頂いた。

コンサートでは、バイオリニストとしても知られる海道久恵先生の指導による大阪府立八尾高等学校吹奏楽部が登場。ビッグバンド・スタイルでの演奏で、ジャズのスタンダードから童謡「ふるさと」のようなコーラス曲まで披露して頂いた。演奏の合間には、海道先生の楽しいバイオリンの解説やソロ演奏などもあり、すばらしい内容だった。その後、八尾児童合唱団のOBを含めた合唱では、全員が大声で歌い、心を癒やすひと時になった。

また今回は、やおコミュニティ放送FMチャオとUSTREAMでライブ中継も行い、病院内のテレビなどを通じて、会場に来ることが出来ない方にも楽しんで頂くことが出来た。大勢の皆さんのご協力に感謝している。（社会環境文化委員長／乾真治）

兵庫県・神戸サン ライオンズクラブ

10周年記念事業 ソーラーポンプ・システム

神戸サン ライオンズクラブ（24人）は結成10周年を迎え、記念事業として災害対策用の給水プラント設備を神戸市の天井川公園に設置した。津波等を想定し、高台に掘削。深井戸水中ポンプを地下に据え付け、ソーラーパネル発電を動力源として、地下水を揚水する。1月19日の贈呈式には矢田立郎神戸市長を始め、海外からも事業視察があった。

18年前、早朝の突然の揺れに飛び起きた。タンスを夢中で支え、揺れが収まると一人暮らしの母の救援に車を飛ばしたことを思い出す。早朝の薄明かりの中、交差点の信号は全て停止していたが、ある交差点のみ黄色の点滅があった。そのことが不思議と記憶に残っている。あの阪神・淡路大震災では蛇口をひねれば水が出ることが当たり前ではないと思い知らされた。

本年度、当クラブはソーラーポンプ・システムを神戸市に贈呈することを決定した。会員の多くが阪神・淡路大震災の被災者であり、自家発電で水が確保出来る設備の重要性を感じていたためだ。

この給水プラントは1日6千人分以上の給水能力を持っている。また、緊急時には水溜場となるように設計された。

このプロジェクトは、資材提供に協力して頂いたグルンドフォスポンプ㈱、システムの設計・設備施工など高度な技術協力を頂いた㈱ワイドハーバー、当クラブのメンバーを始め、資金にご協力頂いた個人、各組織の善意があったからこそ無事に完了することが出来た。感謝の言葉が尽きない。

（会長／廣津義憲）

337-D地区

鹿児島明倫ライオンズクラブ

養護学校での豆まき

鹿児島明倫ライオンズクラブ（12人）は2月1日、鹿児島市内にある鹿児島県立桜丘養護学校を訪問した。桜丘養護学校は、肢体不自由や知的障害の児童、生徒が通学している学校である。この日は会長である私をリーダーとして5人のメンバーで伺い、青鬼・赤鬼・黄鬼などに扮して豆まきを行った。

このアクティビティは今回で3回目となる。だが、教頭先生、担当の先生と当クラブの幹事である島長真次が2度にわたって、当日の段取りや役割分担のための打ち合わせをするなど準備は入念に行った。

当日はあいにくの雨だったが、小学部の1年生から6年生までの子どもたち64人と、各学年の先生、父兄に参加して頂いた。最初に1年生と4人の鬼との豆まき合戦。子どもたちが投げる豆は、当たっても痛くないよう、先生方が工夫をしてくれていた。鬼との戦いで子どもたちは泣いたり、逃げたり、追いかけたりとおおはしゃぎ。メンバーは汗だくで鬼を演じていた。

豆まき合戦終了後は、子どもたち一人ひとりに、当クラブが用意したお菓子の詰め合わせを鬼から手渡した。その後、各学年の子どもたちと記念写真を撮り、最後に校長先生からメンバーに労いと感謝の言葉を頂いた。

当クラブは、11月に鹿児島県母子寡婦父子家庭大運動会への助成金、12月には友愛学園へ助成金を贈呈するなど活動を続けている。このアクティビティも、まだ3回目であり、小さな歩みであるが、これからも地道に続けていきたいと思っている。

（会長／川畑良一）

334-B地区

岐阜県・多治見陶都ライオンズクラブ

応急手当普及員講習会

多治見陶都ライオンズクラブ（渡邉孝司会長／63人）は1月19日、20日、27日の3日間に延べ24時間の「応急手当普及員講習会」を多治見市消防本部南消防署で開催した。

救急車を要請した時、現場に到着するまでに掛かる時間は平均して約8分。心肺停止の患者の場合、3分以内に蘇生をしなければ後遺症が残ると言われる。そのため、救急車が到着するまでの初期手当が非常に重要だ。今回の講習会は初期手当の大切さを認識して応急手当実技を確実に習得するためのもの。もしもの時に迅速かつ確実な対処が出来るよう、心肺蘇生術やAED（自動体外式除細動器）の使用法、止血法を学ぶ。毎回、一般市民から参加者を募って行っており、今年度は31歳から66歳の16人が参加した。最終日には、学習の成果を試す効果測定に全員が合格したため、多治見市消防長の発行する「応急手当普及員認定証」が授与された。

当クラブは人材育成を第一と考えている。この事業は2004年から毎年開催しており、認定証所持者は180人を超える。

参加者の中にはその後、追加で16時間の指導員講習会を受講して「応急手当指導員」の資格を取り、消防本部の応急手当講習会に指導員として参加する方もいる。また、当クラブでは資格保持者が技術を忘れずに向上出来るよう、消防本部の協力を得て、月1回の勉強会も行っている。今後、いつ起こるかも分からない災害に備え、応急手当の普及啓発に努めていきたいと考えている。

（公衆安全委員長／浅井剛）

333-B地区

栃木県・小山思水ライオンズクラブ

第33回野州旗・若獅子旗争奪東日本中学生剣道大会開催

小山思水ライオンズクラブ（12人）は1月27日、栃木県立県南体育館において、栃木県剣道連盟と共催で「第33回野州旗・若獅子旗争奪東日本中学生剣道大会」を開催した。

この大会は「剣道を通し中学生の心身を鍛錬し、相互の理解と信頼を深め、強く明るい健康な次代を担う青少年の育成に資する」ことを目的とし、1981年に小山南ライオンズクラブが開催したのが始まりだ。だが、小山南ライオンズクラブが諸般の事情により解散したため、当クラブが引き継いだ。引き継ぎの年を含め、中断することなく開催している。

この大会は、継続するにつれて年々規模が大きくなっている。今回は男子の参加が117校、女子が98校。栃木県以外の1都10県からも参加があり、参加者数は1500人を超えた。

試合に先立って行われた開会式には、クラブ・メンバー全員が参列。当クラブの舘野三代吉会長が、

「本大会を通じて礼節を重んじ、人格の向上と不屈の精神を養ってほしい。将来、立派な社会人になることを期待している」

とあいさつした。

その後、16の試合場に分かれ、若さあふれる熱戦が展開された。男子の優勝は栃木県の壬生中学校。女子は東京都の国士舘中学校であり、当クラブの名が入った優勝旗がそれぞれの学校に手渡された。

今年度の大会も成功に終わったことを受け、次年度も当クラブのアクティビティとして続行することを決意し、散会した。

（クラブ情報委員／高橋利雄）

335-B地区

大阪府・岸和田ライオンズクラブ

ライオンズクラブ☆デー 高校生ダンスコンテスト

3月10日、大阪府岸和田市の浪切ホール。白のジャンパーを着た岸和田ライオンズクラブ（桝野行男会長／39人）の面々がプログラムを配っている受付を通ると、色とりどりの衣装を着た高校生が大ホールの客席を埋め尽くしていた。この日は「岸和田ライオンズクラブ☆デー　高校生ダンスコンテスト」が行われる。大阪府南部、泉州地方のダンス部に所属する高校生たちにとって大事な大会だ。この日のために練習を積んできた高校生たちは開会式から大盛り上がり。各チームの代表が入場する度に観客席から声援が飛んでいた。

このコンテストは今回で5回目。クラブでは「ライオンズクラブ☆デー」と名付け、献血や国際平和ポスター展も併せて行っている。当日はライオン辻宏が審査員長を務め、メンバーは受付を行う。大会の運営は和泉高校と久米田高校が担当。司会や舞台袖での誘導も高校生が行う。当初はメンバーが全て行っていたが、生徒の自主性を育てるため、今の形となった。しかし、前日までの準備はライオンズが担当。パンフレットやポスターの作成、ホールの予約などで、直前には休む暇もないほどだった。

ストリートダンスは「不良がやるもの」というような固定概念を持つ人がおり、支援の対象となってこなかった。だが、クラブではサッカーや野球とどこが違うのか、と考え、大会を主催。4年間の努力もあって、当初、正式な部活動としては1校にしかなかったダンス部が、他の高校にも相次いで出来た。卒業生が観客として訪れる同窓会のような場にもなっている。先輩に褒められ、皆で涙を流す高校生チームもあった。

運営を任せることで高校生からのアイデアも出てくるようになった。東日本大震災の義援金募集も高校生からの提案だ。また、メンバーが通ると、高校生たちは皆礼儀正しく笑顔であいさつをする。クラブと高校生が一体となって実施しているアクティビティだと感じられた。

（取材／井原一樹）

会場の外には献血車。入り口では国際平和ポスター展が行われていた

335-C地区

京都鴨川ライオンズクラブ

半木の道の紅しだれ桜で緑綬褒状受章

京都鴨川ライオンズクラブ（中井敏雄会長／87人）では1965年から賀茂川の紅しだれ桜の維持管理に取り組んでいる。北山大橋から北大路大橋東岸「半木（なからぎ）の道」に咲く桜は当クラブが植樹したものであり、春には多くの観光客が訪れる桜の名所となっている。この功績を認められ2011年10月に国土交通大臣賞を受賞。更に12年11月3日には緑綬褒状を受章した。これは社会奉仕に貢献する団体としては極めてまれな快挙と受け止めており、全国で地域に根差した活動をされているライオンズ・メンバーにも希望と勇気を与えるものだと考えている。当クラブとしても結成50周年の記念式典を目前にした時期の受章は、式典に花を添えるばかりでなく、活動継続の契機となり身の引き締まる思いだ。

「子孫に緑を」と先達が始めた紅しだれ桜の植樹は74本となり、京都でも屈指の桜の名所となった。京都市民や観光客の皆様にとってなくてはならないものとなっている。更に昨年8月24日には50周年記念アクティビティの一環として、半木の道への記念植樹と山田啓二京都府知事直筆の石碑を建立した。今後もメンバー一丸となって、半木の道の紅しだれ桜を次世代に継承出来るよう維持管理に努めていくつもりだ。

この度の受章は半木の道の紅しだれ桜を愛する全ての人々に与えられたものであり、桜の育成、保護、管理の活動が続けられているのも行政を始め皆様のご理解とご支援があったからこそだと思い、深く感謝している。

（幹事／駒井靖司）

330-C地区

埼玉県・大宮見沼ライオンズクラブ

「薬物乱用防止標語」募集・標語看板設置

大宮見沼ライオンズクラブ（松沢英夫会長／34人）は、2007年からさいたま市内の小・中学校を訪問し「薬物乱用防止教室」を行っている。学校から要請があると、打ち合わせに行き、各学校に合わせたパワーポイントをクラブが独自に作成。薬物乱用防止教育認定講師資格を持つメンバーが講師を務める形で出前教室を行っている。中学生は卒業するまでに3年間同じ講義を受けることになるので、毎年講師を変えたり、内容に変化をつけたりして対応している。

当クラブは今期、結成35周年を迎えた。そこで長年続けている薬物乱用防止活動の一環として、クラブ事務局所在区内7中学校の生徒に薬物乱用防止標語の募集を行った。各中学校には全学年を対象に冬休みの課題として取り組んで頂いた。

そして、1校5句ずつ優秀作品を選んで表彰し、優秀作品の標語看板を作成。2月14日、メンバーのトラックに7校分、35枚の標語看板を積み、それぞれの中学校へ寄贈した。会長から、各中学校の校長先生に渡し、感謝の言葉を頂いた。これらの標語看板は校門、昇降口等、生徒や、近隣住民の目に付く場所に立て掛けられ、薬物乱用防止を呼び掛けるのに一役買っている。

昨今、薬物乱用の事件があまりにも身近に、また頻繁に起こっており心を痛めている。当クラブは青少年の健全育成のため、さまざまな活動を続けている。この標語看板が未来を担う子どもたちの健やかな成長に、少しでも役立ってくれることをメンバー一同願っている。

（幹事／堀江渉）

334-A地区

第5リジョン第1ゾーン（愛知県）

ラオス国ドンサイ村小学校再訪問事業

334・A地区第5リジョン第1ゾーンの7クラブ（常滑、半田、美浜、南知多、阿久比、武豊、知多サザンシニア）の有志は1月29日、ラオス人民民主共和国ウドムサイ県サイ郡ドンサイ村を訪れた。当ゾーンは2009年に校舎を寄贈しており、やりっ放しにしたくないとの思いからだ。今回は遊具、照明器具、扇風機、文房具、スポーツ用品などの寄贈と優秀生徒、優秀教師の表彰を行った。これにより、薄暗い教室内も明るくなり、厳しい夏には扇風機が活躍するだろう。

今回、寄贈した遊具は村民と一緒に築造した。ただ贈るのではなく、村民と一緒に作った滑り台やブランコなどの遊具は県教育局からの視察もあり、モデルケースとなっているようだ。

また、生徒、先生と共にサッカー大会やお絵描き大会なども行い、交流を深めた。ドンサイ村の生徒は普段、サッカーをする時、新聞紙を丸めてガムテープで巻いたものをボールとして使っており、本物のサッカーボールを蹴るのは初めてだった。

今回のドンサイ村再訪は新聞に大きく取り上げられ、ライオンズのPRにもつながった。

ラオスは今、外国資本が入るなど注目されている国の一つだ。外国との交渉で不利な取引をしてしまわないためにも教育の必要性を強く感じている。

将来、このドンサイ村で学んだ子どもたちが成長して日本との友好関係を深め、ドンサイ村やウドムサイ県、そしてラオスを引っ張るような人材になれば、これほどうれしいことはない。

（南知多ライオンズクラブYCE委員長／橋本勝好）

337-A地区

福岡舞鶴ライオンズクラブ

決意も新たに千回例会

福岡舞鶴ライオンズクラブ（21人）は2月7日、千回例会を開催した。結成以来41年と8カ月。「九州ライオンズの父」と慕われた故ライオン貝島義之を初代会長に仰ぎ、故ライオン村上薫を日本から初めての国際会長として送り出したクラブの誇りと伝統に感謝しつつ、出席者約70人で感動的な記念日の夜を過ごした。

一時期は会員が260人を超えた時もあったが、今では会員の高齢化や、厳しい経済状況下で会員増強に苦戦している。それでも全員が「伝統あるクラブに在籍している」と意気軒昂だ。

千回例会のテーマは「感謝」。「今日があるのは、先輩会員のおかげ」との気持ちから、他クラブに転籍し現在もご活躍されている5人のチャーター・メンバーはもちろん、地区役員の方々、スポンサーの福岡西、エクステンションした福岡第一、福岡城東、福岡黒田の3クラブ、常に私たちの活動を応援して頂いている福岡舞鶴ライオネスクラブの皆様をお招きした。更に、退会会員にも参加を呼び掛け5人が参加してくれた。

物故者へ黙祷を捧げ、開会。記念卓話「アジア初の国際会長・村上薫誕生の秘話」では、故ライオン村上薫のご子息で国際協会公認ガイディング・ライオンとしてご活躍中のライオン村上紘一朗（京都モーニングライオンズクラブ会長）が京都からボランティアで駆け付けてくださり、故ライオン村上薫の講演ビデオを交えてライオンズが目指す将来像などについてお話し頂いた。日本ライオンズの明日を考える上ですばらしい教示を頂いたと感謝している。

（会長／井上真輔）

336-C地区

広島県・神辺ライオンズクラブ

第39回神辺史跡めぐり

神辺ライオンズクラブ（小林義和会長／50人）は3月1日、1974年以来の恒例となっている「神辺史跡めぐり」を実施した。これは町内6小学校の6年生を対象とした卒業記念のアクティビティだ。当日は442人の子どもたちが参加。午前8時50分、バス11台に分かれて出発した。

この日回ったのは神辺を代表する史跡ばかり。堂々川砂留群は、大雨が降って土石流が流れても被害が出ないよう江戸時代に作られた。パネルを用いて砂留の構造を説明するのは当クラブのメンバー。子どもたちは熱心に聞くと共に、日本一と名高い歴史ある砂留が近くにあったことに驚いていた。

また、神辺は琴の名手、葛原勾当（こうとう）が住んでいたことでも有名。3歳で失明した彼は目が見えないにもかかわらず、折り紙で鶴などを折ったという。彼が独自の文字を使って書いた日記は貴重な資料である。孫の葛原しげるは童謡作家として「夕日」「村祭り」など全国的にも有名な曲を作った。そんな葛原家も見学した。

参勤交代で大名が宿泊した神辺本陣では雨が本降りになったため、座敷へ上がって説明を聞くことに。子どもたちはそのことに感激し「殿様になったみたい」と喜んでいた。その他、備後国分寺、廉塾、大坊古墳、亀山弥生式遺跡、菅茶山記念館、歴史民俗資料館を回った。

子どもたちの礼状が多数届くアクティビティになったことをうれしく思うと共に、協力してくれたメンバーに感謝の意を述べたい。（YCE・国際関係・少年少女委員長／渡辺忠三）

336-B地区

岡山東ライオンズクラブ

十五代目片岡仁左衛門 チャリティートークショー

岡山東ライオンズクラブ（66人）は1月22日、今期のメーン・アクティビティとして、人気歌舞伎俳優の十五代目片岡仁左衛門さんを迎え、「チャリティートークショー」を開催した。チケットの売り上げは仁左衛門さんからドネーションとして頂いた心付けと共にスペシャルオリンピックス日本・岡山に寄贈し、障害を持つアスリートたちへの支援に使って頂くこととなった。

当日は用意した300席が完売。仁左衛門さんのお人柄も相まって和やかで楽しいイベントとなった。トークショーに先立ち、日本舞踊「若柳流」名取で当クラブ会員山根通代が「若柳三番叟」を披露。そして、昨年12月に発売された仁左衛門さんのDVDのダイジェスト版を上映した。続いてはいよいよ仁左衛門さんのトーク。幼少時に過ごした岡山での思い出から、片岡家のお正月のことを語り、盟友の故中村勘三郎さんは心の中でまだ生き続けている、とおっしゃるその姿には万感胸に迫るものがあった。

後半は、お客さんから事前に集めていた質問に答えて頂いた。そこでは好きな食べ物からお子様たちの舞台についてなど素顔の仁左衛門さんを垣間見ることが出来た。また、抽選で20人に仁左衛門さんオリジナル手ぬぐいを握手と共にプレゼント。当選者には大変喜んでもらえた。

チケットを購入してくださった多くの市民の皆様やライオンズのメンバー、また地元マスコミ各社、DVDダイジェスト版で協力頂いた松竹㈱などに対し、厚くお礼申し上げたい。（会長／中村安生）

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

大鵬親方を偲ぶ

笹本　瞭（千葉県・市川パインツリー）

2013年1月19日、元横綱の大鵬関（大鵬親方）が逝去されました。そのニュースを聞き、在りし日の出来事が私の脳裏に鮮やかによみがえってきました。

1982年、第65回アトランタ国際大会。日本人として、そして東洋人として初めてライオンズクラブの国際会長となられたライオン村上薫が主宰された国際大会です。これに参加の折、私は現地で村上会長を表敬訪問致しました。すると部屋に入るなり会長が、「笹本君、君の近所の方を紹介するよ」と笑いながらおっしゃる。そうして紹介されたのが、あの偉大な元横綱・大鵬親方でした。

私の住む千葉県市川市と、国技館のある両国は、車で15分くらいの近隣同士。それが日本から何千キロと離れたアメリカで初めてのごあいさつとは、思いもよりませんでした。

大鵬親方は現役時代に偉大な功績を残され、「巨人・大鵬・卵焼き」というフレーズが生まれるほどに人気を博していました。また慈善事業にも大変熱心に取り組まれていました。

国際大会最終日、大鵬親方に村上国際会長からライオンズ人道主義大賞が授与されました。毎年世界中でただ一人、顕著な人道的貢献をした方に贈られ、国際大会で表彰される、大変名誉ある賞です。

イラスト／小川和政

献血は今も日本中の多くのクラブが主要アクティビティとして行っている活動ですが、1969（昭和44）年、当時現役の横綱だった大鵬関は、事業に必要不可欠な献血車を2台、日本赤十字社に寄贈されました。これを皮切りに、人道主義大賞を受賞する82年までに24台の献血車・大鵬号を贈られたのです。またNHK主催のボランティア活動などでも大きな貢献をされ、地域社会の称賛の的となっていることが、受賞につながったと評されております。

受賞式の檀上で親方は、
「自分に出来ることをやったまでで、それを表彰して頂いてうれしい。これからもがんばります」

と日本語であいさつされ、村上会長自らがその通訳をされました。満場絶賛の中、受賞された親方の笑顔が、懐かしく思い出されます。

大鵬号の寄贈はその後も続き、09年でその数は何と70台にもなりました。

誰もが憧れる、強く優しい、偉大な方でありました。

故大鵬親方のご冥福をお祈り致します。

ライオンズとワークショップ

阿部 信太郎（兵庫県・神戸兵庫シティ）

今年度、高野文男335-A地区ガバナー方針の一つに、ワークショップが取り上げられています。我々の神戸兵庫シティライオンズクラブでも、この機会にワークショップを開催することに致しました。

ワークショップ

10月18日の例会でワークショップを実施しました。

川井昭爾地区クラブサクセス委員長のご指導の下に、会長、幹事、会員委員会などの応援で、3回実施しました。1グループ4～5人で4グループを作り、グループごとにリーダーと書記を置きました。

第1回はメンバー全員から会員増強、会員維持、クラブ改革、新規活動などの率直な意見を聞いていきました。が、最初は慣れないので本線から外れ、話が飛躍してしまいました。

第2回は全員から出た意見を更に絞り込みました。問題の一つひとつを解決するため全員で取り組み、各グループから発表してもらいました。

第3回（最終回）は解決方法が提示された問題について、それをいつから実施していくかを討議しました。

まとめると、「現状認識」「将来構想」「解決策」「行動計画」というワークショップの流れでした。

しかし、いくらワークショップで勉強しても、全員が気持ちを一本化し、実行していかねばなりません。

今回ワークショップによって、クラブ全体が良好なコミュニケーションを持つことで結束し、活気付いたように思います。これから更なる活躍が楽しみです。

例会の重要性

クラブにおける例会は大きな要素になります。定期的に目的意識を持って出席し、自己研鑽の場とし、多くの異業種のメンバーと接する。社会に大きな影響を及ぼすところにライオンズクラブの存在価値があり、それはメンバー自身が作り出すものでもあります。そのためにはまず例会出席が重要であり、マンネリ化を克服する変化と刺激が必要だと思います。更に国内事業の他、国際大会への参加なども積極的に進めるべきで、それにより自分自身が、国際的奉仕組織の一員であることを自覚されると思います。

ある厳しいアンケート結果があります。「アメリカに住む日本人のことを、現地のアメリカ人はどう思っているか」という設問に対し、「我々と一緒に汗を流してボランティア活動をしたがらない」「日本人は仲間とは思わない」とまで言われてしまったのです。

自ら汗を流す、それでこそ皆から愛され、尊敬されるのです。ライオンズ・メンバーもまた同じだと思います。

ライオンズクラブの原点は「ウィ・サーブ」。人類愛の精神であり、ボラン

ティア活動こそがウィ・サーブであると思います。ただ単にお金や暇がある人だけがやるのではなく、一人ひとりが生きる喜びを多くの人と分かち合い、共に生きる心を育て、愛と奉仕をもって、より良い社会を作ることではないでしょうか。

ライオンズクラブは奉仕をするためだけの場ではなく、毎日がウィ・サーブであり、ボランティア活動なのです。

珍奇変人ライオン、国際交流す

荒木 八洲雄（島根県・松江湖城）

振り返りますと、懐かしい思い出がいっぱいです。

私、ライオン歴もかなり古く、入会が1967（昭和42）年9月で古株ナンバー1。松江湖城ライオンズクラブ最古参のライオンとなりました。

我がクラブ、1964年結成で、やがて50周年になんなんとす。数々のアクティビティに参加したこと、計画委員会を始め各委員長を受け持ったこと、独特の個性丸出しのリードを推進し続けた思い出は走馬灯のごとし。本当に我が道を行く珍アイデアの連続でした。

忘れもしません。変わった企画として、県立松江盲学校生徒さんたちに、私が専門とする郷土芸能「銭太鼓」を打つ練習、レッスン・コーチを企画。学校訪問し、手を取って伝授しました。想像を超えた上達ぶりに、心弾ませ楽しんで頂けた様子が見てとれました。いいアクティビティだったのかなと自画自賛。ひそかに喜んだことでした。

あれから随分と年数が経っていますから、きっとそれぞれにお父さん、お母さんになって、次の世代に伝授してくださる方々もあるのではと、期待が膨らむのです。

委員会で鍛えたプランがまさに生きてくるんですね。

全国のライオンの中でもごくごく平凡な一人で、会長・幹事の体験もありません。しかしユニークな島根県の郷土民謡『安来節』（どじょうすくい踊り）に取り組んでおります。ただひたすら陽気な気持ちで「テレントッテェトンテン」の軽快な伴奏リズムに乗っかって、外国人の方々にもフレンドシップを前面に出して、語学の壁なぞ吹き飛ばす。文字通り国際交流「ウィ・サーブ」を地でいき、全世界を親善友好で渡り歩いている、変わり者、珍奇ライオンであります。

ああ、そうだ。国際交流と言えば、不肖私、今年何と国際交流50周年（1960〜2013年）になるんです。3月24日にはこれを記念して、県内在住の外国人の方を対象とした安来節の無料講習会も開催しました。

国際交流の始まりは若かりし頃。ふとラジオから聞こえてきた日本語北京放送の、極めて流暢な標準語のアナウンスにほれ込んで、すぐさま北京放送

獅子吼

局に便りを出しました。その後も度々手紙を書き、熱心なリスナーとしてお褒めのお便りも次々頂くようになりました。

中でも心に強く残るのは、私が唐突にも、当時の周恩来首相に宛てて手紙をお出しした時のこと。中国・上海市松江区の名前の由来について、その昔、留学僧としてこの地で学んだ春龍和尚が帰国の際、「ここは雰囲気、風景が日本の松江によく似ている」と時の城主に進言し、松江と呼ばれるようになったとのこと。それが周首相の目に触れることになり、北京放送聴者を代表し国賓として招かれたのでした。これまた不思議な絆。

こうしたご縁あって、国際交流に励むライオンの一人なのであります。

例会出席数1136回無欠席継続中

木村 實（福岡県・久留米ちとせ）

本誌2月号「獅子吼」に掲載された、ライオン内山茂の記事で、ライオン内山が所属する岡山西ライオンズクラブが、メーキャップを含むクラブ例会100%出席を200回連続達成されたと拝見しました。大変な偉業を成されたと感服しております。と同時に、ご苦労があったことと推察致します。心よりお祝い申し上げます。

これに対比する訳ではありませんが、小生は1965（昭和40）年に久留米ライオンズクラブに入会。71（昭和46）年に久留米りんどうライオンズクラブが結成されたのを機に転籍チャーター・メンバーとなり、更に77（昭和52）年には現在所属している久留米ちとせライオンズクラブ転籍チャーター・メンバーとなりました。これらを経て2013（平成25）年まで、通算48年間例会継続出席1136回（メーキャップなし）を数え今日に至っています。

小生は別に取り柄もありませんが、ライオンズクラブ入会以来25年間例会連続無欠席を受賞したのを機に、この後もう25年間、無欠席を目標にしました。おかげで今も記録を伸ばしています。自分を褒めてやりたい気分です。

出席を続けている経験から申し上げますが、例会は出席する価値があるものです。またクラブが努力して更にその価値を高めていくべきものでもあります。その点で『ライオン』誌に掲載されている「ライオン誌例会のススメ」は参考になりますので、全クラブに浸透させたいものです。

さて小生齢84歳になりましたが、一昔前に久留米キャビネット（337・A地区）の構成員を、またクラブ会長等々の役職を経験したことも、例会連続出席を続けられた要因だと思っています。

キャビネット構成員時代には、長いライオンズ歴の中でも心に残っているエピソードがあります。その年、地区キャビネットに多少の余剰金があることが分かりました。構成員全員で思案の結果、地区年次大会で全クラブに余剰金分配の賛同を求めることになりました。そこでやんやの喝采で賛成を得、大変喜ばれたのです。名誉顧問たちは反対の様子でしたが、年次大会の決議なのであきらめられました。

小生を除く当時の久留米キャビネットの構成員、ガバナー、地区幹事らは、既に全員他界されてしまいました。大変寂しく感じています。

小生も日本人男性の平均寿命（79・64歳）を超え84歳になりましたが、例

会以外にも、若獅子たちと一緒に植林、盲導犬育成、献血、青少年マラソンなどの奉仕活動に参加しています。

皆さんご存じの聖路加国際病院の日野原重明理事長が、昨年100歳を超えられました。まだゴールどころか始まりで、2020年までの予定が入っているそうです。そしてこれは予定ではなく、神様との約束なのだとか。感服致しました。小生も目標を達成出来るよう歩みを続けたいものです。

現在、小生はゴルフのラウンドと、車の運転（歴60年）を一番の楽しみにしています。ライオンズクラブ・ゴルフ部会にもハンディをたくさん頂き参加しています。残された人生であと何年出来るか不明ですが、努力していきたいと思っています。

芸術の都パリで獅友の書作展

井村 一男（長崎県・諫早）

今年7月5日からドイツ・ハンブルクで開かれるライオンズクラブ国際大会の直前に、フランス・パリにて出口喜男（雅号・恵山／長崎県・諫早ライオンズ）の書の個展が開かれます。まるで文字が踊っているような彼の作品は、力強く、躍動感あふれる前衛書です。「LOVE」「LIFE」「PEACE」などアルファベットの文字に彩色を施した作品も手掛けて、優れた芸術作品として海外でも高い評価を受けています。作品「LOVE」は3年前、ノーベル平和賞受賞者マザー・テレサの生誕百周年に際して世界平和芸術家協会が刊行した記念誌の表紙を飾りました。

今年で90歳の卒寿を迎える出口は、1995・96年度337-C地区ガバナーを務め、七つの病院を経営する現役ドクターです。献眼運動に並々ならぬ情熱を注がれ、現在はドクターの元地区ガバナーが中心となって設立したNPO法人日本アイバンク運動推進協議会の議長でもあります。

特筆したいのは、地区ガバナー在任中に立ち上げた諫早センチュリアンライオンズです。現在は会員数205人と、日本最大のクラブに成長させました。大正12年の亥年生まれの出口は、目標を決めたらまっしぐら。その尽力と腕力のなせる技です。

出口の卒寿を記念する今回の個展は、パリ左岸サンジェルマン・デ・プレにあるエチエンヌ・ドゥ・コーザン・ギャラリーで開催されます。有名ギャラリーが軒を連ねるセーヌ通りの、ボーデザール（パリ美術学校）にもほど近い一画で、周辺のカフェや教会もアートで彩られて、美術ファンや観光客が絶えることのないエリアです。会期は6月21日から29日まで。ハンブルク国際大会へ出席される前に、芸術の都パリで我らライオンズ仲間の書を鑑賞されてはいかがでしょう。

Close up

代々の住職が受け継ぐ 一休さんの納豆

当寺はもともと妙勝寺といって、鎌倉時代に大應国師が開山したのが始まりです。その後、兵火により荒廃していたところ、大應国師を慕う一休禅師が、それを憂えて再興し、師恩に報いるという意味で、「酬恩庵」と命名されました。一休禅師63歳の時で、88歳で亡くなるまで25年間、酬恩庵に住まわれ、81歳で大徳寺住職となられた時もここから通われました。

その一休禅師が、寺と、寺のある薪村に製法を伝えたのが、一休寺納豆です。納豆と言っても、皆さんが普段食されているものとはだいぶ異なります。一般に納豆と言われるのは、大豆を納豆菌で発酵させたものを指しますが、一休寺納豆は麹菌を使って発酵させた後、乾燥・熟成させます。中国料理に使う豆豉に似ており、粘り気もありません。製法そのものは、奈良時代に一度、中国から伝来したと考えられていますが、それがいつの間にか途絶え、鎌倉時代に再び中国から禅僧が持ち帰り、その製法を基に一休さんが作ったのが始まりとされています。以来約550年、歴代の住職がそれを受け継いできました。

仕込みは毎年、土用の太陽が照りつける7月の末頃に始めます。蒸した大豆に、はったい粉と麹を混ぜ、蔵で2日間発酵させます。その後、大きな木桶に塩湯を作り、大豆を入れて約1年天日干しをします。その間、毎日何回もかき混ぜます。4月ぐらいにほぼ出来上がりますが、そこから更に1年、2年と寝かせて熟成させます。

仕上がりは黒褐色で、味噌を何倍にも凝縮したような香りがし、塩辛いけれども深く香ばしい味になります。そのままご飯に乗せて食べたり、お茶漬けにしたり、酒のつまみとして召し上がる方もいらっしゃいます。京都には落雁に入れて、甘みと辛みを調和させた和菓子もあります。塩分控えめと言われる現代では敬遠される方もいらっしゃるかもしれませんが、一休さんから代々伝わる味ですから、このまま守っていくつもりです。

ところでぜんざいも、一休さんにまつわる食べ物と言われています。大徳寺の住職から餅の入った小豆汁をごちそうになり「善哉此汁」とおっしゃったことから「善哉」になったというのです。そこで当寺では1月最終日曜日を「一休善哉の日」とし、一年一善――今年1年、自分がどんないい行いするか絵馬に書いて奉納してもらい、ぜんざいをふるまっています。

■田邊宗一

たなべ・そういち 1949年京都府京田辺市生まれ。72年花園大学文学部仏教史学科卒業。名古屋の徳源寺専門道場で修行の後、77年父の跡を継ぎ酬恩庵一休寺の住職となった。89年京都府・綴喜ライオンズクラブ入会。2011年度クラブ会長。著書に『一休寺』(京の古寺から)がある。

※一休寺：京田辺市にあり、とんちで知られる一休禅師が後半生を過ごした。本堂、方丈、庫裏、唐門などは重要文化財に、虎丘庵庭園や方丈庭園は名勝に指定されている。

写真・構成／鈴木秀晃

愛媛県八幡浜市

元祖 魚肉ソーセージ

愛媛取材の帰り、松山空港の売店を覗いたところ、ゆるキャラグランプリ2012第1位のバリィさんグッズがたくさん並んでいた。しかしそんな中、一目見て思わず手を伸ばしたのは、売店の片隅にひっそりと置かれた魚肉ソーセージの箱だった。

日本で最初に魚肉ソーセージを作ったのは愛媛県の西南開発。1951年のことで、「スモークミート」の名で商品化。翌年には明治屋と契約し、全国販売を開始した。「元祖 魚肉ソーセージ」はその時の復刻版だ。

魚肉ソーセージの原材料はタラが主流だが、「元祖」は創業時と同じ100%国産アジを使用。他の材料もほぼ創業時のままで、元社員の開発ノートを基に当時の配合を再現した。

その配合率の関係なのか、アジを使っているからなのか、「元祖」は一般の魚肉ソーセージに比べ歯応えがあり風味も強い。当初は千箱限定発売の予定だったが、評判が良かったため、今では定番商品になっている。

●「西南開発㈱」愛媛県八幡浜市保内町宮内1・300・1

ふるさと探訪

佐賀県 有田町

文／砂山幹博　写真／田中勝明

世界を席巻した日本磁器のふるさと

有田 ARITA

日本の磁器発祥の地

JR佐世保線の有田駅〜上有田駅間の狭い谷間の川沿いには約4キロにわたって旧市街地が帯状に伸びている。窯元であることを示すレンガ造りの煙突が所々に突き出す景色を目にすると、ここが日本有数の焼き物の里だと実感する。白しっくいの町家としゃれた洋風建築が混在する、かつての中心地は内山と呼ばれ、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。普段はゆっくりとした時間が流れる静かな目抜き通りも、ゴールデンウィーク中に開催される有田陶器市の間だけはあふれんばかりに焼き物が並び、それを求めて全国から訪れる観光客でにぎわう。人口2万1500人の小さな町が、期間中には延べ100万人に膨れ上がるというから、そのにぎわいや推して知るべし、である。

有田で焼かれているのは主に磁器。陶石（または磁石）と呼ばれる石を砕いて粘土にし、高温で焼き上げたものだ。白く、硬く、そして艶やかなこの焼き物は中国で生まれ、その技術が朝鮮半島を経て日本に伝わった。日本と磁器の接点は、豊臣秀吉の朝鮮出兵（文禄・慶長の役）の時代にさかのぼる。秀吉の急死で、朝鮮半島に渡っていた諸大名はそれぞれの国へ引き上げたが、この時、佐賀鍋島藩は道案内役だった朝鮮人陶工の李参平を連れ帰っている。李参平は現在の多久市に窯を開き作陶に精を出すが、どうしても思うような焼き物が焼けない。原料は土しかなく、朝鮮で使っていた時のような陶石が手に入らなかったのだ。陶石を求めて領内を回った参平は、1616年に現在の有田町に入り、ついに良質の陶石を発見した。この場所こそが、日本の磁器発祥の地にして、

佐賀鍋島藩の御用窯で焼かれた精緻で格調高い磁器は「鍋島様式」と呼ばれる。幕府や諸大名、朝廷への献上品として作られた（撮影協力：今右衛門窯）

佐賀県 有田町（ありた）

佐賀県西部に位置し、北は伊万里市、東は武雄市、南西部から南部にかけては長崎県との県境に接する内陸の町。南北を貫く有田川は伊万里湾に注ぎ、その東西には標高700メートルを超える国見連山と黒髪連山が連なる。
総面積／65.8平方キロ
総人口／21,419人（2011年10月1日現在）

その後の有田の磁器産業を支えることとなる泉山陶石場である。一つの山だったところを約400年間、採掘し続けた結果、荒々しい岩肌に囲まれた東西450メートル、南北250メートルにも及ぶ広大な空間が生まれた。山がそっくり磁器に変わってしまったのだ。

明治以降は歩留まりの良い天草陶石（熊本）が主流となったため、今では泉山での採掘はほとんど行われていないが、地下には十分なほどの陶石が埋蔵されているという。いずれ天草陶石が枯渇しても、この泉山の陶石を生かせるように、現在、資源の活用が再び検討されている。

▲濃い染付（白地に青一色の絵付け）に赤や金の絵の具をぜいたくに重ねたものを「古伊万里様式」と呼ぶ。輸出品として大量に作られ、余白がないほど文様が描きこまれた絢爛豪華な作風が代表的だが、「柿右衛門様式」「鍋島様式」に属さない幕末以前の有田焼は全て古伊万里に含まれる（撮影協力：源右衛門窯）

▶「柿右衛門様式」は、乳白色の濁手（にごしで）釉と赤絵の美しく華麗な作風。輸出初期の花形として海外で高く評価された。アシンメトリーの構図で余白をしっかり残す絵柄が特徴（撮影協力：柿右衛門窯）

国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている有田内山の町並み。約700メートルにわたって、しっくい塀や明治期の洋風建築が軒を重ね合っている

特別な許可をもらって坑道の内部を見せてもらった。天井や壁面には当時の手掘りの跡が残っていた

17世紀初めに、朝鮮人陶工の李参平によって発見された泉山陶石場。現在採掘はほとんど行われておらず、白磁ケ丘公園として整備されている

名工らが技を競って奉納した磁器製の大鳥居が目を引く（陶山神社）

伊万里焼として海外へ

有田焼発祥の地を訪れた後は、県立九州陶磁文化館で有田焼について体系的に学ぶのがいいだろう。陶石の発見後、すぐに磁器の制作が始まったが、初期のものは線描きが太く、塗りにもムラが見える。白地も全体的に青みがかっているが、時代が進み、精製技術が高くなると白さが増し、線描きもより繊細になっていく。誌面の都合上詳細は省くが、有田で作られていたにもかかわらず、積み出しが伊万里港だったため「伊万里焼」とも呼ばれていたこと。作陶は朝鮮の影響を受けたが、絵付けに関しては中国（明）の影響を受けていること。「柿右衛門様式」「古伊万里様式」「鍋島様式」が有田を代表する三大様式であることなど、同館で焼き物の基本知識を身に付けながら展示を追えば、時代の変遷と共に有田焼がその様相を大きく変えていったことがよく理解出来る。

１６５０年代には、有田の磁器は既に輸出が出来るほどのクオリティーになっていた。もともと中国の明の磁器がヨーロッパ市場に入り込んでいたが、明が清に替わり、１６５５年の海禁令で海外貿易が禁止されると、有田磁器のニーズは一気に高まる。以後ほぼ１００年の間、有田の磁器は伊万里焼として海外へ大量に出回ることとなり、うち少なくとも50年間はヨーロッパ市場を席巻していた。ただ残念なことに、幕末に再度有田焼のブームが訪れるまで、かの地ではメードイン・チャイナとジャパンの差はほとんど意識されていなかったようだ。

有田の新しい魅力、発見

焼き物のイメージの強い有田町だが、２００６年に西有田町と合併し

蜜に生姜の風味が効いた有田名菓「陶助おこし」。よくある米菓のつもりでほおばると、とろけてしまうような柔らかな食感に驚くはず

割烹食器など業務用食器の専門メーカーである錦右ヱ門陶苑（会長：ライオン山口賢治／TEL.0955-42-2323）で、肥前有田ライオンズクラブの皆さん

2011年に有田の新ご当地グルメとしてデビューした「有田焼五膳」。有田焼の器が有田産鶏肉を使った料理を彩る（亀井鮨：ライオン古川次則／TEL.0955-43-2951）

たことで新しい魅力も加わった。

　周囲を山に囲まれた西有田地区には、山の斜面に美しい曲線美を描く「岳の棚田」が広がっている。点在する集落と一体となった農村の風景は、日本棚田百選にも選ばれている。ここで取れた棚田米は、生活排水の混じらない国見山系の天然水で栽培されるため味が良いと評判だ。また、一帯は九州でも有数の畜産地で、ここで育つ「はがくれ牛」も肉質が良いことで知られる。

　2011年には、有田の新ご当地グルメとして「有田焼五膳」がデビューした。有田の特産品である鶏肉が、焼き物・酢の物・煮物・蒸し物・揚げ物に調理され、この料理のために特別に開発された有田焼のオリジナル器に、それぞれ盛り付けられる。現在、六つの店舗で提供されており、価格は1200円と統一されているが、調理方法さえ合っていればOKなので、料理内容は各店の個性が現れる。有田焼の器と盛り付けを楽しみながら味わうプレミアムな料理としてファンを獲得しつつある。

　2016年には、有田焼が創業400年を迎える。それに合わせて開催される400年祭の準備で、当地は静かにそしてゆっくりと熱を帯びつつある。祭では果たしてどんな驚きが待っているのか、しばらく有田から目が離せそうもない。

▼取材協力クラブ

　肥前有田ライオンズクラブ（黒髪寛延会長／29人）＝1968年8月4日結成／スポンサー：唐津ライオンズクラブ／有田町を源流に伊万里湾へ流れる有田川の環境保全を考える「有田伊万里リバーフォーラム2100」に力を入れている。母なる有田川が100年先まで豊かな清流を保てるようにと、2006年から肥前有田ライオンズクラブを含む川沿いの五つのライオンズクラブのメンバーが集い、小中高生らと共に年に2度の河川の清掃活動を行っている。

読者から―3月号

■いち早い震災特集

今年も3・11の前後は、震災関連の報道でいっぱいでしたが、ライオン誌でいち早く特集を組んだのが良かった（「THEME：追跡・東日本大震災Ⅲ」）。だんだんと風化しつつあるという現実に、もう一度、被災地のライオンズと共に歩む方法を具体的に進めたいものだ。

北海道・小樽ライオンズクラブ●佐々木忠康

■風化させてはならない

「THEME：追跡・東日本大震災Ⅲ」からは、震災復興へ懸ける被災地クラブの皆さんの強い気持ちが伝わり、またそれを支援をする他クラブの皆さんの温かい心に感激しました。震災や事故の記憶は、ともすれば時間と共に薄れてしまうことが多いのですが、この東日本大震災だけは決して風化させてはならないものだと感じております。

秋田県・大曲ライオンズクラブ●池田光英

■今後の支援活動のヒント

ライオン誌日本語版委員会の皆さんが、岩手県沿岸部の被災地を訪問されたという記事に感銘を受けました（「被災地のライオンズは今」）。被災地の現状を直接目にし、被災した会員の生の声を聞かれた委員による報告は、これからのライオンズクラブの支援活動のヒントになるのではと期待しています。

山口県・楠ライオンズクラブ●武波博行

■単独では出来ない大きな支援

「獅子吼」の「『新しい公共支援事業』への取り組み」を興味深く読んだ。この取り組みは、政府の交付金を利用して新たなアクティビティの開拓を行う点と、複数の団体が連携して活動する点が要件となる。そのため、ライオンズクラブのみならず複数団体との間に垣根が無くなり、お互いの活動の良さを知り、ライオンズ単独の事業に比べて何倍もの大きな支援を行えるということに注目した。

長崎県・佐世保南ライオンズクラブ●久田裕己

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

3・8 北海道倶知安 大広 直
3・9 兵庫県神戸長田 丸橋 正紀
3・14 東京赤坂 阿久津隆文
3・14 東京 池崎 道男
3・22 東京堀留 菅原 雅雄

体験談募集：海外クラブ例会訪問

7月号特集「お国ぶり拝見-クラブ例会編」で、各国例会事情をリポートします。海外ではどんな例会を行っているのか？ 日本とどう違うのか？ 海外で例会訪問した経験のある方は、ぜひ体験談（800～1千字程度）をお寄せください。締切は5月15日。Eメール（edit@thelion.jp）かFAX（03-3546-2630）で送付を。

読者プレゼント

■大船渡名物さんまの干物を5人に

今月号「被災地のライオンズは今」で取材した岩手県大船渡市は県内最大の港を抱える水産の町。秋にはさんまの水揚げで活気づき、港の復興が町を元気づけています。今回は、及川冷蔵㈱のさんま天日干しをセットにしてプレゼント。小型ながら脂の乗ったさんまを天日干しし、丸ごと骨まで食べられる「三陸太郎」の他、吟醸干し、塩干し、みりん干し、ぬか漬けと、さんま尽くしのセットです。

＊写真はイメージ

プレゼントをご希望の方は、はがきに「大船渡」と明記して、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は5月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌事務所
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページ クイズの解答〉第1問=b.／第2問=a.／第3問=b.／第4問=a.／第5問=c.

もう一度読みたい「あの記事」

●1987年3月号　特集：日本ライオンズの源流を探る

『ライオン』誌バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

「都道府県内　最古クラブ懐古談」

青森ライオンズクラブ／和歌山県・白浜ライオンズクラブ

「ライオンズクラブ誕生秘話」

新谷良吉（青森ライオンズクラブ）

昭和31年夏頃、青森のバプテスト教会に通っていたクリスチャン、市川少年が不治と言われる眼病を患った。豊原牧師に相談したところ、同じ教会の宣教師ハルバーソンさんがこれを耳にし、かねて「日頃お世話になっている青森の皆さんにご恩返しをしたい」と話していたアメリカの母親に伝えた。その母の弟はワシントン州リッチランドライオンズクラブのメンバーで、早速クラブの例会に諮ったところ、わずか5分間で治療費135ドルを贈るアクティビティを決定したとのこと。

その金は東京ライオンズクラブに送られ、東京ライオンズクラブはそれを記念基金にした上、クラブのアクティビティとして同額を市川少年の治療費に提供した。このことが、同年9月23日付の地元新聞『東奥日報』朝刊に4段抜きで「愛の光が国境を越えて」と大々的に報道されたのが、青森ライオンズクラブの誕生のきっかけとなったのである。

東北地区第1号、全国で第37番目のクラブとして、今日に至っている。

ハルバーソンさんは、他にも在日中に青少年の交換を行うなど、多くの社会福祉関係の仕事をされていたと記憶している。

なお、リッチランドライオンズクラブのアクティビティは、日本と同時にアメリカでも大きな感動を呼び、一大センセーションを巻き起こしたことを付け加えておきたい。

「草創の頃の思い出」

池田久男（白浜ライオンズクラブ）

昭和34年1月、大阪サウスライオンズクラブのご尽力により、和歌山県下初のクラブとして結成された。チャーター・メンバー31人でスタートしたが、ライオンズの名前さえ誰も知らず、全く暗中模索の状態であった。

例会は第1、第3土曜日、午後6時開会。たどたどしい運びではあったが、「ライオンズ・ヒム」をレコードを頼りに斉唱。その後、飲み物は自己負担で会食となる。会話のテーマはもちろんライオンズに関することで、ファインとは何ぞや、アクティビティとは？　PRの意義は？　と、出席者全員が意見をぶつけ合って、酒も入っていることとて、そのにぎやかなこと。

一知半解の議論も多かったと思うが、互いに仕事を離れ、心を開いて、こうした議論を戦わせた。そのうちに、メンバー同士の中に相互理解と信頼感が湧いてきて、まるで兄弟のような付き合いになり、小さいながらも団結力の強いクラブに育っていった。

田舎で、身近に友人も少ない状況の中で、こうしたクラブが生まれ、今まで知らなかった多くの友人知己を持つことが出来た喜びは、格別のものであった。

当時は形こそ整っていなかったが、内容は実に和やかで、この初期の頃の楽しい自由奔放なクラブの雰囲気が基礎となり、その後、いろいろの紆余曲折を経ながら現在のクラブへと育っていったと、私は思っている。

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

何でも日本一

■東西南北、端っこナンバー1

全国に広がるライオンズクラブのネットワーク。3200を超えるクラブの中で、東西南北で日本の端に位置するクラブを調べてみた。最東端は、北海道・根室ライオンズ（62年結成／会員数35人）。最西端かつ最南端は、沖縄県・八重山ライオンズ（62年／38人）。そして最北端は北海道・稚内ライオンズ（62年／43人）と稚内北斗ライオンズ（94年／64人）。東西南北とも、くしくも同じ62年にクラブが結成されており、半世紀を超える歴史を重ねている。ちなみに、日本の最東端・南鳥島と最南端・沖ノ鳥島が属する東京都小笠原村には小笠原ライオンズ（98年／13人）があるが、ここではクラブ事務局の所在地で比較した。

この日・この月

赤十字社が「世界赤十字デー」に制定する5月8日は、赤十字創始者アンリー・デュナンの誕生日。スイス人実業家のデュナンはイタリア統一戦争の激戦地で負傷者の救護活動に当たり、その惨状を記した著書『ソルフェリーノの思い出』で、戦場の負傷者と病人は敵味方の差別なく救護することや、国際的な条約締結の必要性を訴えた。この訴えがヨーロッパ各国に大きな反響を呼び、1863年に「赤十字国際委員会」の前身である「5人委員会」設立につながった。

また、日本赤十字社の前身「博愛社」が、西南戦争の折、赤十字と同様の救護団体を作ろうと設立されたのは1877年5月。その設立の趣意書が提出された5月1日が、日本赤十字社の設立記念日となっている。

日本赤十字社は、1859年にデュナンが赤十字の着想を得てから五人委員会結成までの5年間に合わせ、2009年から13年まで「赤十字150年」キャンペーンを展開中。

今月号の記事から

THEME「リーダーシップ」（5～19㌻）では、全国から集った若手会員に「リーダーシップ」について議論してもらいました。この若手会員フォーラムで取り入れた手法を用いて、クラブの指導者育成や活性化、新規事業などについてディスカッションを行ってはどうでしょう。

★ライオン誌例会のノウハウを収めた「ライオン誌例会 開催ガイド」は、ライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）「各種書式／ロゴ」の「ライオン誌関係」のページでダウンロード出来ます。本誌バックナンバーはEブック形式で公開しておりますのでご活用ください。

次号予告

LION

THEME **メンバーシップ**

エクステンションの成功事例と、クラブ内の世代交代がうまく進んだことで会員増強と活性化が図られたクラブを取材。

ふるさと探訪 **茨城県常総市**

時代劇を中心に、ドラマや映画など年間100本もの撮影が行われている「ロケの街」常総を訪ねる。

クイズ de 例会

〈第1問〉協会のトップ・リーダー、国際会長の選挙が行われるのは？
a. 国際理事会　b. 国際大会
c. エリア・フォーラム

〈第2問〉第2副地区ガバナー立候補の資格要件で経験が必要な役職として正しくないのは？
a. 地区委員長
b. ゾーン・チェアパーソン
c. キャビネット会計

〈第3問〉次の地区役員のうち、地区ガバナーの任意で設置されるのは？
a. ゾーン・チェアパーソン
b. リジョン・チェアパーソン
c. 第2副地区ガバナー

〈第4問〉指導力育成を目的とするGLTの「T」は何の頭文字？
a. Team　b. Tribe
c. Trio

〈第5問〉今月号THEME企画の若手会員フォーラムで行ったディスカッションは○○・カフェ方式。
a. オールド　b. コールド
c. ワールド

★回答は54㌻下

識字率とは何か

ライオン誌
日本語版委員
◉
田崎登保
（宮崎県・日向）

「初めに言葉ありき、言葉は神と共にありき、言葉は神であった」。聖書の冒頭の言葉である。言葉によって人が人でありえたのであろうと思う。

　現在、世界には実に6500種類もの言語が存在しているという。私たちは特に難しいとされる日本語を母語とする国民として、特異な、世界からは孤立した言葉を操っていることとなるのだが、1億2千万人という母語話者数は、世界9位に位置している。日本語は非常に繊細で独特の個性を保っている。日本人の豊かな、そして優しさを持った性格も、またその言語から育まれたものなのであろう。

　英語さえ話せれば、世界中を旅行して回っても通用するのではと思っていたが、そうでもなさそうだ。もちろん英語は世界で一番通用する言語ではあることは間違いないが、日常的に使っている人は5億人ちょっと。世界は広いのだと改めて思った。

　ところで今年度の国際会長のテーマ。識字率の向上である。識字率ほぼ100%の日本には全く関係ないという声も聞こえる。そうだろうか。私には何か引っかかるのだ。

　世界の人口は既に70億人を超えた。しかし今、日本人で海外に行って、いや国内ででも外国の人と対等にコミュニケーションが出来る日本人がどれほどいるのだろう。

　言葉とは、通じ合って初めて言葉となるのではないか。識字とは何なのか。

70億の世界の中、1億人ほどの日本の存在は、これから更にグローバル化が進む世界の中でどうなっていくのだろうか。政治でも経済でも、言葉の理解力の差で、日本が孤立しているように感じるのは私だけだろうか。

　もちろん、日本語はすばらしい。世界へ広がっていくべき要素も多い。

　しかしである。やはり世界の流れは既に英語なのである。ライオンズの進めるYCEを始めとして、ライオンズクラブの使命として、英語教育の一層の必要性を考えていくべき時なのではないかと思っている。

Official publication of Lions Clubs International

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

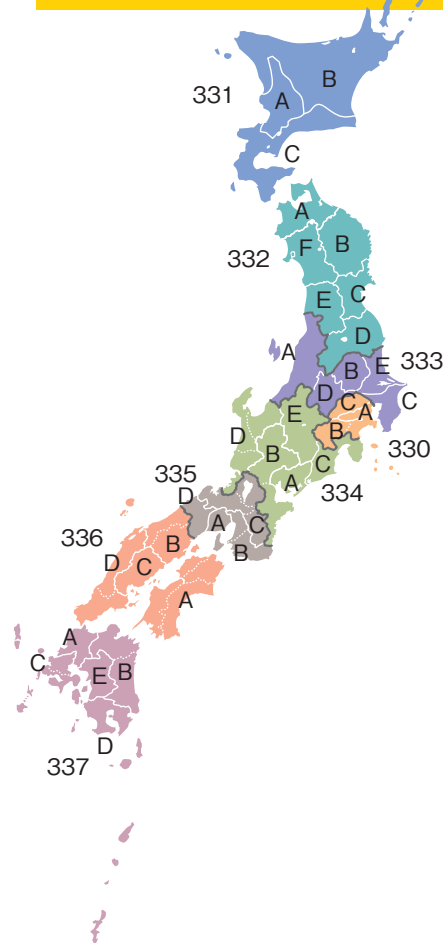
ライオンズクラブ国際協会の公認出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2013.3.31　eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	期首からの増減
330-A	東京	204	5,028	4,285	743	34
330-B	神奈川·山梨·東京	174	4,827	4,220	607	-87
330-C	埼玉	94	2,288	2,048	240	-17
330	計	472	12,143	10,553	1,590	-70
331-A	北海道(道央)	72	2,421	2,252	169	8
331-B	北海道(道北·道東)	89	2,459	2,329	130	7
331-C	北海道(道南)	53	1,788	1,596	192	22
331	計	214	6,668	6,177	491	37
332-A	青森	65	1,852	1,598	254	114
332-B	岩手	55	2,247	1,605	642	-10
332-C	宮城	76	1,566	1,265	301	25
332-D	福島	76	1,961	1,769	192	17
332-E	山形	58	1,848	1,644	204	38
332-F	秋田	49	1,351	1,064	287	69
332	計	379	10,825	8,945	1,880	253
333-A	新潟	77	2,830	2,518	312	7
333-B	栃木	53	1,474	1,085	389	2
333-C	千葉	140	3,519	2,929	590	80
333-D	群馬	53	2,065	1,675	390	10
333-E	茨城	79	2,864	2,572	292	118
333	計	402	12,752	10,779	1,973	217
334-A	愛知	122	5,198	4,642	556	11
334-B	岐阜·三重	82	4,382	3,323	1,059	912
334-C	静岡	82	3,100	2,969	131	-7
334-D	富山·石川·福井	100	3,903	3,642	261	104
334-E	長野	52	2,013	1,782	231	30
334	計	438	18,596	16,358	2,238	1,050
335-A	兵庫(東)	93	2,250	1,931	319	-55
335-B	大阪·和歌山	181	5,539	4,846	693	98
335-C	滋賀·京都·奈良	119	3,926	3,602	324	50
335-D	兵庫(西)	66	1,924	1,713	211	6
335	計	459	13,639	12,092	1,547	99
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	151	5,445	4,804	641	-26
336-B	鳥取·岡山	96	3,070	2,773	297	23
336-C	広島	101	3,397	3,190	207	-4
336-D	島根·山口	99	3,187	2,955	232	56
336	計	447	15,099	13,722	1,377	49
337-A	福岡·長崎	117	4,559	3,968	591	208
337-B	大分·宮崎	73	2,339	2,164	175	28
337-C	佐賀·長崎	84	3,063	2,565	498	-25
337-D	鹿児島·沖縄	80	2,360	2,152	208	14
337-E	熊本	58	1,577	1,419	158	-24
337	計	412	13,898	12,268	1,630	201
総計		3,223	103,620	90,894	12,726	1,836
世界のライオンズの		7.0%	7.6%	8.9%	3.8%	

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2013.3.31　国際協会集計

ライオンズ国または領域	207
世界のクラブ数	46,322
世界の会員数	1,363,315
※男性会員数	1,025,472
※女性会員数	337,843
期首からの増減	15,941

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	12,084	341,499	-5,625
インド	6,183	227,779	11,605
韓国	2,107	82,477	1,122

第96回ライオンズクラブ国際大会 - 7月5日～9日

ドイツ・ハンブルク

ライオン誌5月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2013年(平成25年)4月20日発行　毎月1回20日発行　第55巻第11号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社